



令和元年度指定

地域との協働による高等学校教育改革推進事業  
グローバル型 生徒課題研究成果資料集・第3年次

---



令和4年3月

昭和女子大学附属昭和高等学校



---

## 巻 頭 言

昭和女子大学附属昭和高等学校長 真下峯子

本校は 2014 年度、文部科学省から「スーパーグローバルハイスクール (SGH)」の指定を受け、5 年間にわたる事業に取り組みました。SGH の指定を終えた翌年 2019 年度から 3 年間「地域との協働による高等学校教育改革推進事業【グローバル型】」の研究指定を受け、SGH 事業をさらに充実発展させることができるという幸運に浴することができました。【グローバル型】指定最終年度を終えるにあたり活動の成果と課題を本報告書にまとめ、全国に発信する機会をいただきますことを感謝いたします。

「地域との協働による高等学校教育改革推進事業」は新高等学校学習指導要領を踏まえ、Society5.0 を地域から分厚く支える人材の育成に向けた教育改革を推進するため、高等学校が自治体、高等教育機関、産業界等と協働してコンソーシアムを構築し、地域課題の解決等の探究的な学びを実現する取り組みを推進、質の高いカリキュラム開発・実践、体制整備を進め、特に【グローバル型】はグローバルな視点を持って地域を支えるリーダーを育成することを目的としております。

本校では「都市型社会課題への発信力を育成するクロスサービスラーニングプログラム」を研究開発名として活動いたしました。本校は東京都世田谷区にある私立の女子中高一貫校ですが、世田谷区在住の生徒は全校生徒の約 3 割です。他 7 割が東京都他区部、区部外、神奈川県、埼玉県、千葉県から通学しており、生徒たちは地元世田谷区の社会課題への関心と理解を深めるために「世田谷研究」から開始し、ローカルプログラム「サービスラーニング」でボランティアを通して地域課題の解決の探究的な学びを推進していきました。グローバルプログラム「LABO 研究」ではグローバルな課題を設定して大学の先生にご指導を仰ぎ、より専門的な知識や視点をもちながら広く深く活動を実施しました。

この 2 年間はコロナ禍の渦中、様々な活動制限があり当初立てた計画どおりに進めることができずでしたが、コロナの猛威をかい潜るようにして生徒たちはできることをできる方法で可能な限り取り組みました。海外への渡航は許されず涙をのみましたが、遠隔会議ツールを使って国際交流を行っていくことができました。

国連のグテーレス事務総長は、「人類が引き起こした問題は、人類によって解決できる」と希望を語っています。当事業で学んだ生徒たちが、政治や経済、地球環境など複雑につながり、解決が難しい多くの課題を抱えた 21 世紀のグローバル社会を生きていくとき、どのような課題にぶつかろうとも、本学の建学の精神である「世の光となろう」を胸に、解決に向けて果敢に挑戦していつてくれることを期待したいと思います。2022 年度からは文部科学省の指定を終えていよいよ自走していくこととなりますが、8 年間の研究成果をさらに発展させ、生徒が将来グローバルな場で、ローカルな場で活躍できる力を探究活動を通して育ててまいります。

最後になりますが、本事業実施にあたりご指導くださいました文部科学省の皆様、運営指導委員になってご支援くださいました世田谷区長、副区長、アクティブ・シティズンシップ研究所 興梠寛代表、公益財団法人世田谷区産業振興公社の皆様、地域協働学習指導員となってご協力くださいました世田谷区の皆様、世田谷ボランティア協会の皆様、LABO アドバイザーとなって長きにわたり生徒を導いてくださいました上智大学 日比谷武特任教授、昭和女子大学 伊藤純教授、昭和女子大学 米倉雪子准教授、興梠寛代表、そのほかお支えいただきました皆様に心から感謝申し上げます。

---

---

はじめに ～本校の地域協働活動～

グローバル推進委員長 勝間田秀紀

本校のグローバル人材育成プログラムは「Think global, Act local」を合言葉に、様々な課題を世界規模で考え、地域規模で実践していく人材育成を目指す活動である。本事業を通じて育成するグローバル人材像・人物像は以下の2つである。

- ①「『SDGs』・『都市型社会課題』への関わりを軸に、グローバルな視点とローカルな視点を備えた世の光となれるグローバル人材」
- ②「他者との協働を通じて、主体的に課題の解決に向かう責任感と意欲あふれる女性」

「世の光となろう」は本校の学園目標であり、地域やグローバルな視点を育むうえで欠かせない視点である。この人材を育成するために、「考える力」「見つける力」「つなげる力」などの6つのスキルと「アイデンティティの確立」「グローバルな視野」などの5つの行動目標を設定し、その育成を通じて、グローバル・ローカルの環境の中での協働と共調意識を育てていくのが本校の地域協働連携事業である。

本校の地域協働連携の取組みは、世田谷区と連携し、高校生が地域で課題を発見し、その解決方法を地域と協働で考案していくサービ斯拉ーニング(ローカル)、グローバルなテーマのもと海外研修や企業訪問などを通じて課題の解決をめざすLABO研究(グローバル)の2つの柱からなる。他校と比べて特徴的なのは、世田谷区にある私立校であるため、世田谷区が地元・故郷であるという生徒が非常に少ない点である。多くの生徒は区外や神奈川県から通学しており、学校所在地に地元意識を持った生徒が少なく、どのような団体があるのかも知らない生徒が多い。そのため学校のある地域、その地域に住んでいる方々と、いかに強固な協働体制をつくり、ローカル意識を育ていけるかが課題であった。

この3年間で、地域協働の形として世田谷区・産業振興公社などとの協力体制を築くことができた。今年度もコロナ禍という地域連携にとっての困難は続き、海外研修はもちろん、都内での緊急事態宣言の発出により、地域連携活動も大きく制限された。そのような中で地域コンソーシアムと学校との結びつき、および地域と学校の連携体制を強固にし、管理機関を軸としたコンソーシアムのもとで生徒の活動先開拓をはかれたのは、3年間をかけて行ったコンソーシアム構築の賜物であったと考える。

本校のプログラム・コンソーシアム構築の取組みについては、文科省の指定が終了したのちも継続的に運用できるようにすることが求められており、また、その普及も図らねばならない。とりわけ本校は、都市にある私立高校としては数少ない指定校である。取組みだけでなく、実施上の課題とその改善などもふくめてカリキュラム開発をまとめ、地域連携推進の先駆的な事例となるよう開発を進めたい。

---

---

～ 目 次 ～

巻頭言

はじめに～本校の地域協働活動～

1- 研究開発完了報告書	1
【目標設定シート】 【成果概要図】 【教育課程表】	
2- 研究開発概要	14
3- 事業実施体制	21
(1) コンソーシアム	
(2) カリキュラム開発専門家、大学教員、地域協働学習実施支援員	
(3) 運営指導委員および運営指導委員会	
4- グローバルプログラム (1年生・2年生)	25
LABO1	
LABO2	
LABO3	
LABO4	
LABO 活動 3 年間の成果	
5- ローカルプログラム (1年生・2年生)	52
1 年生：サービスラーニング	
2 年生：サービスラーニング	
教科横断型授業	
テキスト・ワークシート(抜粋)	
6- 進路探究 (3 年生)	77
7- グローバルイシュープログラム	78
(1) SDG s キャリア講演会	
(2) ユネスコスクール課外授業	
(3) SDMs(Speech,Debate and the Model United Society)の諸活動	
8- コンソーシアム運営協議会議録	91
9- 活動のまとめと成果	98
10- 生徒の成果物	106
11- 本事業に関わる新聞記事	118

---

---

---

# 1 - 研究開発完了報告書

令和4年 3月31日

## 研究開発完了報告書

文部科学省初等中等教育局長 殿

住所	東京都世田谷区太子堂1-7-57
管理機関名	学校法人 昭和女子大学
代表者名	理事長 坂東 真理子

令和3年度地域との協働による高等学校教育改革推進事業に係る研究開発完了報告書を、下記により提出します。

### 記

#### 1 事業の実施期間

令和3年 4月 1日（契約締結日） ～ 令和4年 3月 31日

#### 2 指定校名・類型

学校名	昭和女子大学附属昭和高等学校
学校長名	真下 峯子
類型	グローバル型

#### 3 研究開発名

「都市型社会課題への発信力を育成するクロスサービスラーニングプログラム」

#### 4 研究開発概要

本校では「世の光となる」「Think global, Act local」を合言葉に、様々な課題を世界規模で考え、地域規模で実践していくグローバルな人材の育成を進めてきた。それをもとに、本事業では育成するグローバル人材像・人物像を、

①「『SDGs』・『都市型社会課題』への関わりを軸に、グローバルな視点とローカルな視点を備えた世の光となれるグローバル人材」

②「他者との協働を通じて、主体的に課題の解決に向かう責任感と意欲あふれる人材」とし、「世田谷研究（世田研）」、「グローバルサーチ」、「LABO 研究」、「サービスラーニング」、「キャリアビジョン」の段階的なプログラムを通じて、他者との協働のなかで持続可能な共生社会の実現に向けたアクションプランを提案するグローバル人材の育成をめざすことを目標とする。

活動の主軸となるのは地域型探究学習プログラムである「LABO 研究」「サービスラーニング」で、地域活動やボランティアへの参加、企業・商店街との連携、社会への提言などを実践の舞台として、世田谷区が抱えている都市型の社会課題や、ジェンダーなどのグローバルな課題の解決策提案をめざす活動である。「LABO 研究」はグローバルな社会課題をテーマとするグローバル課題解決を志向する研究、サービスラーニングは世田谷区の抱える課題を解決するローカルを志向する活動として位置づけ、生徒は「LABO 研究」「サービスラーニング」のどちらかを選択（LABO 研究は選抜制）して探究活動を行う。

この活動に、ローカルとグローバルの両視点を加えることで、グローバルな視点で課題解決の実践に取り組める人材の育成につなげるのが本プログラムの構想である。地域の魅力や課題を探る「世田谷研究」を通

じて、地域課題解決に必要な知見や方法論を学びながら地域の課題を自分事として捉えることのできる「ローカルの視座」を育む。また、海外フィールドワークである選択制国内外研修旅行と、その事前事後の調査学習（「グローバルサーチ」）によって、海外での知見や SDGs への理解などの視野を広げて考察ができる「グローバルの視座」を育む。地域課題解決型探究学習にグローバルな視座とローカルな視座を交錯（クロス）させて思考を深めることによって、体験に基づく学びや課題意識、広い視野に目を向けた考え方を、地域的な視点・課題意識で再構成させていくようにする。このクロス化によって、より広く深い視野をもった実践的な学びを構築し、グローバルな視点で課題解決の実践に取り組める人材の育成につなげることができると考える。さらに、高校 3 年次に「キャリアビジョン」の時間を設定し、探究での学びを活かして将来像を描く活動を行う。3年間の系統的な探究のカリキュラムを構築し、生徒自身が主体性をもって世の光となろうとする人材を育成する系統的な探究学習プログラムである。

## 5 学校設定教科・科目の開設、教育課程の特例の活用の有無

- ・学校設定教科・科目      開設している      ・ 開設していない
- ・教育課程の特例の活用      活用している      ・ 活用していない

## 6 運営指導委員会の体制

氏名	所属・職	備考
岩本 康	世田谷区 副区長	行政機関
宮崎健二	公益財団法人世田谷産業振興公社 副理事長	協力機関
興梠 寛	社会福祉法人世田谷ボランティア協会 理事	学識経験者

## 7 高等学校と地域との協働によるコンソーシアムの体制

機関名	機関の代表者
公益財団法人 世田谷区産業振興公社	宮崎健二 副理事長
社会福祉法人 世田谷ボランティア協会	興梠 寛 理事
世田谷区 生活文化部 まちづくり推進係	石井貴和 係長
世田谷区 経済産業部 産業連携交流推進係	佐藤智和 係長
三軒茶屋銀座商店街振興組合	飯島祥夫 理事長

## 8 カリキュラム開発専門家、海外交流アドバイザー、地域協働学習支援員

分類	氏名	所属・職	雇用形態
カリキュラム開発専門家	會川恵志	昭和女子大学附属昭和高等学校	非常勤
地域協働学習支援員	大久保舜海 石綿紅里	世田谷区 環境政策部環境計画課	
〃	青木千穂 椎名和美	世田谷区 子ども・若者部子ども家庭課	
〃	太田和信也 仲田啓太	世田谷区 清掃・リサイクル部事業課	
〃	小林和弘	東京都動物愛護相談センター	

## 9 管理機関の取組・支援実績

### (1) 実施日程

業務項目	実施日程							
	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
コンソーシアム構築	世田谷区・世田谷区産業振興公社と相談・運営指導委員を選出			地域協働学習支援員協力依頼・出前授業				
コンソーシアム運営指導委員会							実施	
公開講座の実施				独立行政法人国際協力機構と海外支援に関する講演を計画			実施	



(2) 実績の説明

① 世田谷区と世田谷区産業振興公社に運営指導委員会への参加を依頼。副区長など構成メンバーを選出した。

- ・ 7/21 (水) 訪問先：世田谷区 岩本 康 副区長  
場所：世田谷区役所第 1 庁舎 3 階 副区長室  
目的：運営指導委員への就任依頼
- ・ 9/29 (水) 訪問先：公益財団法人世田谷区産業振興公社 小田桐庸文 常任理事  
場所：世田谷区産業振興公社  
目的：地域学習支援員の推薦・調整
- ・ 10/5 (火) 訪問先：東京都動物愛護相談センター 業務担当 小林和弘 氏  
場所：東京都動物愛護相談センター  
目的：講演会講師依頼
- ・ 10/7 (木) 訪問先：世田谷区 環境政策部 清水優子 部長  
場所：世田谷区 二子玉川分庁舎  
目的：地域学習支援員派遣依頼
- ・ 10/8 (金) 訪問先：世田谷区子ども・若者部子ども家庭課 中西明子 課長  
子ども・子育て支援担当係 青木千穂 係長  
場所：世田谷区第 1 庁舎 5 階  
目的：地域学習支援員派遣依頼
- ・ 11/17 (水) 訪問先：公益財団法人 世田谷区産業振興公社 宮崎健二 副理事長  
小田桐庸文 常任理事  
場所：世田谷区産業振興公社  
目的：人事異動に伴う委員変更・就任依頼

② 運営指導委員会は令和 4 年 2 月 22 日に実施した。

③ アンケート調査結果に基づき、生徒が関心を持つ地域課題を抽出。4 つの 카테고リーに分類し、世田谷区から地域協働学習支援員の推薦を受けた。

④ 各支援と面談し、本事業の目的を説明。カテゴリー別の講演とサービ斯拉ーニングの指導を依頼した。

⑤ 令和 3 年 10 月 26 日には地域協働学習支援員を招聘して以下のテーマで出前授業を行った。

テーマ「インフラ」 世田谷区の住み良い『まち』づくり (環境・交通・防犯・観光)

テーマ「こども」 世田谷区の子育て支援の取り組みと高校生にできること

テーマ「食」 世田谷区的环境問題について (ゴミ・フードロス)

テーマ「動物愛護」 東京都の動物愛護の取り組みと高校生にできること

⑥ 海外研修を実施できないため、紛争地で人道支援活動を行った JICA 関係者による講演会を令和 4 年 1 月 25 日にオンラインで行った。

テーマ 1 看護師・助産師として海外協力隊員で活動して身につけた力

テーマ 2 海外協力隊員として活動して身につけた力 ～途上国支援の視点から～

10 研究開発の実績

(1) 実施日程

実施項目	実施日程											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
ローカルプログラム ・世田谷研究 ・サービ斯拉ーニング	← 世田谷研究(高1) →			← サービスラーニング(高2) →			← サービスラーニング(高1) →			← →		
グローバルプログラム ・LABO 研究	← →			← →			← 企業訪問・地域訪問 →			← 講演 →		
高3 進路探究 ・Showa Career Vision	← 学びの履歴書 →			← →			← SDGs 課題 →			← →		

(2) 実績の説明

① ローカルプログラム

ー1. 高校1年前期：世田谷研究

地域探究基礎として、地域の魅力や課題を知るためのフィールドワークを実施。地域の魅力や課題について、自らの関心に基づいてテーマを設定し、地域実地調査やヒアリングを通じて、課題研究の手法・スキルを育成するとともに、後期からの提案型探究(サービラーニング)に応用していけるよう、地域と自己を結び付け、地域理解を促進するための活動として位置づけた。

テーマ	訪問先の例 (2021年度)	生徒延人数
介護	ホスピア三軒茶屋 (高齢者介護施設)	5名
子ども教育	世田谷区子ども家庭支援課、Pista 子ども食堂三軒茶屋、世田谷保育園	50名
街づくり	エコプラザ用賀、駒沢オリンピック公園、世田谷区みどり33推進担当部	95名
商店街	下北沢一番街商店街、ブルーランジェリーボヌール (製パン)	22名
動物愛護	東京都動物愛護相談センター、犬猫譲渡センター保護犬猫カフェ	12名

ー2. 高校1年後期：サービラーニング (地域課題の把握と設定)

ボランティアを通じた地域課題の発見・把握と現状の把握を行い、自分たちが解決すべき課題を検討し、具体化する活動が1年の段階となる。コンソーシアムを活用してボランティア活動先・訪問調査先の開拓を進めた。

テーマ	おもな活動/ボランティア先・調査活動先の例 (2021年度)	生徒人数
子ども教育	地域での子育て支援、子ども食堂、コロナ下のストレス軽減、子どもの外遊び 深沢児童館、昭和こども園、池尻児童館、Pista 子ども食堂、若林子ども食堂、 東京育成園、世田谷区児童相談所、せたがや虹の子保育園	38名
インフラ・防犯	高齢者の暮らしやすい街、世田谷の治安、世田谷の観光客増加策 ホスピア三軒茶屋、三宿つくしんぼホーム、桜新町商店街、東急電鉄株式会社	16名
環境・福祉	バリアフリー、きれいな世田谷の実現 世田谷区道路・交通計画部、ホスピア三軒茶屋、世田谷プラスチックプロジェクト、 千歳清掃工場	21名
食	フードドライブ活動、世田谷野菜PR、世田谷商店の活性化、コンビニの食品ロス エコプラザ用賀、リサイクル千歳台、世田谷区清掃・リサイクル部、駒沢オリンピック公園、 ファーマーズマーケット、次大夫堀公園里山農園	19名
動物愛護	捨て猫・捨て犬ゼロ活動、殺処分ゼロに向けたPR 東京都動物愛護相談センター、動物福祉団体 Pauer、犬猫食堂	12名

ー3. 高校2年：サービラーニング (地域での実践)

地域が抱える課題の解決に向けて、地域と協働してアクションプランを計画・実施を行う活動が2年の段階となる。コンソーシアムを活用して関係を構築した地域の団体と協働してプランの提案・実施を行う。

テーマ	おもな活動/協働先・活動先の例 (2021年度)	生徒人数
子ども教育	子ども食堂の取組み、スマホとSNSに潜む危険、子どもの体力低下、待機児童対策 世田谷区子ども家庭支援課、子ども食堂 虹バル、世田谷区二子玉川小学校、池尻 児童館、おでかけひろば SHIP、ドナルド・マクドナルドハウスせたがや、東京育 成園、メリーレディースクリニック、いば小児科	51名
街づくり	桜新町商店街活性化、三軒茶屋地域活性PR 三軒茶屋銀座商店街、桜新町商店街、世田谷区産業振興公社	13名
多文化共生	外国人差別をなくす、外国人の住みやすい生活 昭和女子大学国際交流センター、甘味処甘寛	8名
その他	動物愛護の未来、食品ロス問題 世田谷保健所、プラットホーム世田谷、NPO 犬猫譲渡センター、昭和女子大学附 属昭和小学校、学生ボランティア企画団体 NUTS	18名

## ② グローバルプログラム

### －1. LABO 研究

SDGs の理念を軸に、キャリアデザインに資するより深いまたはより広い国際的課題から 4 つの研究テーマをとりあげ課題研究を行う。1 年 2 年混合で 4 つの LABO に分かれ、企業や大学教員が指導を担当し、コミュニケーション力や多面的視点など、総合的な素養を育む。

#### ◆LABO アドバイザー

LABO1 日比谷武上智大学特任教授／LABO2 伊藤純昭和女子大学人間社会学部福祉社会学科教授／LABO3 米倉雪子昭和女子大学国際学部国際学科准教授／LABO4 興梠寛アクティブ・シティズンシップ研究所 (ALEC)代表

LABO	活動日	主な協働先・活動先 (2021 年度)
LABO1	4 月～3 月 10 月 31 日	日比谷武 LABO アドバイザーによる講義 (4/1,5/18,6/8,7/9,10/19,11/30,1/25,3/16) サステナブル・ブランド国際会議 2022 第 2 回 SB Student Ambassador ブロック大会 参加
LABO2	4 月～3 月 6 月 29 日 12 月 17 日 12 月 19 日	伊藤純 LABO アドバイザーによる講義 (4/27,5/18,6/1,10/12・19・21・26・28,3/1) 「駒場東邦 PJ」担当大学生講演 (ZOOM) 海城高校生徒とのディベート 2021 年度 全国高校生フォーラム
LABO3	4 月～3 月 8 月 18 日 10 月 22 日 10 月 30 日 10 月 31 日 12 月 11 日 1 月 8 日	米倉雪子 LABO アドバイザーによる講義 (4/27,5/18,6/8,8/23,10/22・30・31,12/11,1/11,3/1) 株式会社友成工芸 友成哲郎氏 講演「カンボジアの現状と技術支援」 POPOK 大路紘子氏 講演会 スヴァイチェイク・オーガニック・ファーム、アンコール・クッキー創業者 カンボジアの高校生との ZOOM 交流会 クラタペッパー 倉田浩伸氏 講演会 グローバル・SGH 5 校合同 カンボジア研修合同研修会 (オンライン)
LABO4	4 月～3 月 7 月 17 日	興梠寛 LABO アドバイザーによる講義 (5/12,6/23,7/17,9/29,10/20,11/24,12/17,1/12,3/19) 伊能さくら氏講演会

### －2. SDGs 講演会

2021 年 1 月 25 日 JICA 国際協力出前講座

児玉久美氏 (元シニア海外ボランティア隊員)

大橋恵美氏 (元青年海外協力隊員)

## ③ その他の活動

### －1. 進路探究「Showa Career Vision」 高校 3 年生

これまでの自身の経験や学びをまとめ、自己のキャリアデザインを作成していく活動として、高校 3 年次に実施。世の光となれる自身の将来像を思い描き、そこに到達するために踏むべきキャリアステップを「学びの履歴書」「学びの設計書」の作成を通じて描いた。また、SDGs の国際課題も含めた絶対的な正解のない課題に取り組む「非認知スキル育成プログラム」を実施し、本人の強みや改善点などを認識できるようにした。

実施期間	活動 (2021 年度)	生徒人数
前期	学びの履歴書・設計書作成、AP と進路について など	184 名
後期	SDGs カリキュラム (ディベートなど)	184 名

### －2. 教科横断型授業

今年度は高校 1 年生で教科横断型の授業を実施した。海外研修が中止となった期間 (2021 年 12 月) に設定し、「自分の意見を持つ、データ・資料分析、パフォーマンス (発表)」など探究スキルの育成に通じるテーマで授業を実施した。

	授業テーマ (タイトル)	授業内容
1	数字を読んで小論文を書こう	論理的な文章を書くために、論拠となる数字を如何に使うか、COP26 を取り巻く数字を使いながら環境問題について小論文を書き上げる。
2	オリンピック・パラリンピックの歴史から 2020 東京オリンピック・パラリンピックを振り返ろう！	今年・過去のオリパラから、戦争や冷戦などが原因となって開催を中止したり、出場を辞めた経緯がある国があったりしたことを学び、オリンピックが政治と絡んでいる事実を学ぶ。また、そのことに関する人々の意見を日本国内だけでなく、海外の意見にも耳を傾けることで、様々な価値観に触れ、自分の意見を見つけ、主張する。
3	運動負荷による心拍数の変化と恒常性	運動すると心拍数が上昇しますが、しばらくすると元の心拍数に戻っていきます。この授業では 5 分間の全力疾走前後で心拍数がどのように変化するか、そして、運動後どのように心拍数が回復していくのかを計測・可視化し体感します。5 分間の全力疾走は 3 回以上行い、複数回のデータを取得し、データの比較も行った。
4	江戸時代の文学	江戸時代の文学作品を読み、当時の情勢や流行などを分析する。江戸時代まで主流であった崩し字の読み方を練習することで、中世文学作品・資料の原典へのアプローチができるようになる。
5	ポエトリーリーディング ～英詩の朗読会～	ビート・ジェネレーションが形成したポエトリーリーディングの文化を再現する。空間をデザインし、英語の詩をどう読むかを考え、意味にとらわれずに「音」や「発声」という楽しみに触れることで、言語文化への理解を深める。英文の朗読あり。人前でのパフォーマンスあり。
6	ラブレターを読み取られるな！	インターネットを用いた通信をベースに、第三者が通信を盗み見することが可能な状況で、どうやって送信者と受信者だけが内容を理解できるように通信を行うかを学習し、数学の有用性を感じてもらおうことを目的とする。

その他、中学 1 年でもシンガポール研修の準備学習として、英語・社会・理科による横断型学習を実施した。

#### ④ 事業の評価

探究効果検証のため、高校 2 年生が 2 年間の探究活動における 6 つの育成スキルと 5 つの行動目標について自己評価を行った。6 スキル・5 行動目標を生徒の成長把握の因子として活用した。

また、外部調査機関の株式会社リバネス 教育総合研究センターが実施している探究活動調査に参加して探究活動および学校活動について質問法による自己評価を実施した。この評価において中学生と高校生に実施し、知的関心や探究への姿勢などの指標で、中学段階との成長度合いの違いを比較した。

6 スキル	「受け取る力」 ...聞く力、観察力、自己理解 「見つける力」 ...課題発見力、発想力、創造力、自己の強みを見つける力 「考える力」 ...論理的思考力、問う力、課題解決力、多面的視野 「つながる力」 ...仲間との協働、地域との協働、世界とのつながり、考えと考えをつなぐ 「伝える力」 ...プレゼン力、質問力、発信力 「より良くなる力」...挑戦力、向上心、価値を学ぶ力、キャリアデザイン力
5 行動目標	「自己を知り、アイデンティティを確立しようとする」 「世界や地域のできごとに関心を持ち、考えを表現しようとする」 「失敗を恐れずチャレンジしようとする」 「責任感を持ち、リーダーシップを発揮しようとする」 「多様性を認め、寛容な他者理解の心をもつ」

#### ⑤ 成果の公表・普及

- ・サステナブル・ブランド国際会議 2022 ブロック大会 (令和 3 年 10 月 31 日) 参加。
- ・オンライン文化祭 (令和 3 年 11 月 14 日) で LABO 研究の成果報告を配信。協力いただいた地域団体・グローバル指定校・アソシエイト校に通知)
- ・2021 年度 全国高校生フォーラム (令和 3 年 12 月 19 日) に LABO2 が参加。
- ・SGH・グローバル等カンボジア合同研究会 (令和 4 年 1 月 9 日 和歌山信愛高等学校の主催でオンライン開催)
- ・文部科学省主催「全国高校生フォーラム」 (令和 4 年 1 月 25 日) オンライン発表会に参加。本校は協力校として生徒が B グループの司会を担当した。

- ・総合的な探究全校発表会（グローバル探究成果発表会）（令和4年2月18日）LABO 研究成果発表・サービスラーニング代表グループによる成果発表。
- ・グローバル探究成果発表会（令和4年2月22日）コンソーシアム関係者、区民などを招待しサービスラーニングの成果報告をオンラインにて開催。

### 1.1. 目標の進捗状況, 成果, 評価

〈目標 1〉 いま世田谷区が直面する課題に敏感になり社会的・倫理的責任感、人間性を育成し、コミュニティと積極的に関わろうとする人材を育成する。

- ・地域協働学習実施支援員の協力、コンソーシアムによる活動先・人材の開拓・支援体制の確立により、地域での活動を充実させた結果、サービスラーニングでは新型コロナウイルス感染状況拡大の中でも、地域活動やボランティアが実施できた。

- ・世田谷研究を高校1年前期に設置したことで、サービスラーニング開始時の地域への関心度について肯定的な解答率が68%から91.8%と飛躍的に高まった(右図参照)。区外からの生徒が多い本校ではいかに生徒の関心を世田谷区に向けていかが課題だったが、生徒の地域への関心拡大に成果を見出すことができた。

(株)リバネス 教育総合研究センターによる調査の該当項目は以下の通り。

(中学n=614 高校n=478)

指標	中学	高校
積極的・外向的な行動をとる	18.4%	35.6%
分かった事や発見した事が、どんな人や問題の解決に役立つか考える	38.6%	51.9%
学校内外の人の力や知識を借りる	36.9%	53.1%

- ・今年度は事業対象生徒の100%が地域での活動に参加した。活動開始時から比較すると、目標1に関わる「リーダーシップ」や「地域への関心」「つながる」の指標で増加が見られた。LABO研究ではコロナ禍で地域での活動に重点化した2021年の指標が大きく増加した。

〈目標 2〉 社会的な人材育成を行う探究活動プログラムを体系的に構築し、論理的に物事を考える能力を育成する。

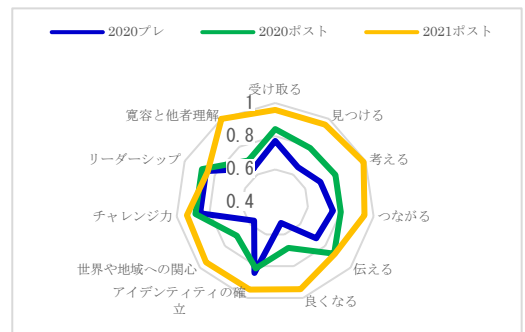
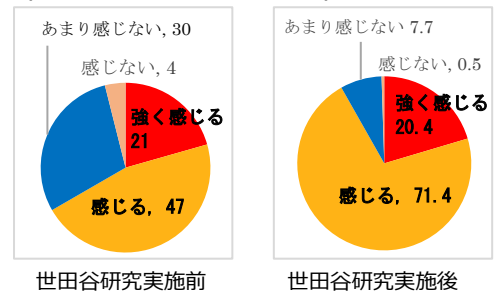
(株)リバネス 教育総合研究センターによる調査の該当項目は以下の通り。

(中学n=614 高校n=478)

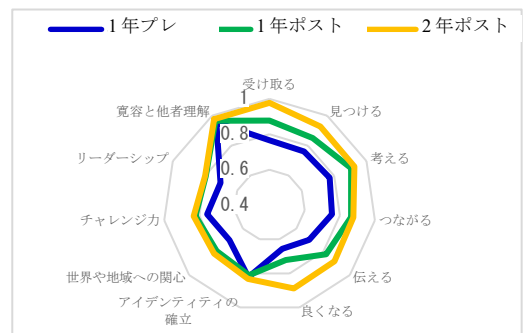
指標	中学	高校
問いを立てたり、自分が明らかにしたいことが何かを見つける。	35.7%	52.7%
独創性のある自分ならではのアイデアを考える。	35.3%	49.7%
分かったことや発見したことをわかる安く発表する。	36.2%	48.7%

- ・活動開始時から比較すると、目標2に関わる「見つける」「考える」「つながる」「伝える」の指標でいずれも増加が見られた。中高6年間での段階的な資質・能力開発のための系統的な探究プログラムを開発した。高校では2年間で探究のサイクルを2回以上回せるよう教材・テキストを作成し、座学の活動として進めた成果だと考える。

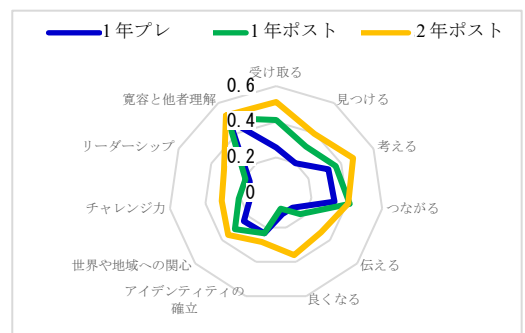
Q.世田谷区で起きているできごとに興味を持っていますか。(サービスラーニングプレアンケートより) (n=188)



LABO 肯定的評価の経年変化



高2 SL 肯定的評価の経年変化



高2 SL 強い肯定評価の経年変化

〈目標3〉 グローバルな取り組みと地域探究など諸活動をクロス化させることによって探究活動の質の高度化をはかり、総合的な学ぶ力を育成する。

- ・SDGs や探究スキル開発を軸として進める探究活動と各教科との内容・方法を横断する授業は、海外研修実施時には、社会科の「SDGs 開発教育実践集」をもとに、中学でも実施して中高の活動のクロス化を進めた。今年度は高校1年で大規模に実施することができた。
- ・LABO 研究ではコンソーシアムと連携して世田谷区内での提言や実践、企業・団体訪問など重点化し活動に取り組んだ。因子分析を見ると、LABO の地域への関心度を大いに向上している。実践例としては LABO2 で活動の成果物（ジェンダーかるた）の改善・普及を行った。

〈目標4〉 生徒の中に、地域のためにより有益な行動をしようとする意識を涵養していくために、恒常的な産官学連携・地域連携コンソーシアムを形成する。

- ・サービスマーケティングでは、地域協働学習実施支援員の強化によって、コロナ禍であってもボランティア活動や地域での活動を世田谷区内で実施することができた。生徒が何らかのアポイントをとりボランティアや活動実践に協力いただいた区の団体数は下の表の通りで、コンソーシアムによる活動先の紹介、探究活動の体系的なカリキュラムが確定するにつれ大幅に増加し目標値を大きく超えることができた。

指標	2019年度	2020年度	2021年度	目標
地域での活動参加・実践協力団体数	59人	16団体	85団体	10団体

## 1 2. 3年間の研究開発を終えて次年度以降の課題及び改善点

### (1) 教育課程の研究開発の状況とコンソーシアム運用

高1前期に世田谷区を知る調査研究基礎、高3で活動から得た学びを振り返りキャリアデザインを構築する進路探究を配置し、教材開発を行った。地域の課題への理解促進と地域課題の自分事化によって、自分の将来につなげていく流れができ、3年間を無駄なく用いた系統的な探究プログラムを構築することができた。

コンソーシアムの人材開拓力を生かした地域の人材の掘り起こしを進め、生徒の地域意識の醸成、ローカルへの志向性を高めることができた。生徒と地域との活動のマッチング、活動考案のためのアイデアシェア、活動実践のためのコンサルティングを緊密な連携の下で進めることができた。また他高校や大学・外部団体との連携、特に区内の団体との連携数は飛躍的に増加し、課題研究の実践や助言、評価等に多数の外部人材が参画するようになった。

今年度も併設大学の企画による高大連携の取組みを実施したが、今後もその方向性で大学の協力を求めるとともに、大学のサービスマーケティング専門施設(コミュニティサービスマーケティングセンター)を高校生向けに開放し、活動先の充実の役立てる取組みも進めたい。

一方で、授業のあり方については、教科横断型授業開発や SDGs 開発授業等を実施したものの、海外研修が中止となったこともあり、学校全体の取組みという点では不十分な部分があった。講義形式の授業もまだまだ多く、探究とリンクする生徒の主体的・対話的な深い学び合いを促す授業の実施を働きかけることによって探究活動への理解と授業観の転換を進めていきたい。

### (2) 生徒の変化

本事業の構想では、「『社会課題』への関わりを軸に、グローバルな視点とローカルな視点を備えた世の光となれるグローバル人材」、「他者との協働を通じて、主体的に課題の解決に向かう責任感と意欲あふれる人材」と位置付け、段階的なプログラムを通じて、他者との協働、責任感、ローカル・グローバルへの視座、キャリアデザイン力等を育てることを目標にしてきた。各種指標からは、こうした力が伸長したことがうかがえる。

(高1 n=106 高2 n=109)

指標	高1プレ	高1ポスト	高2ポスト
より良くなる力(キャリアデザイン力・向上心など)	66%	72%	89%
世界や地域の出来事への関心を持つようとする	70%	79%	81%
責任感を持ち、リーダーシップを発揮しようとする	70%	80%	80%

スキル指標・行動目標の指標を用いた自己評価は今後も継続的に活用し、生徒の学びが一過性のものにならないよう、今後も引き続き工夫したい。特に 11 の指標を用いた分析は、学年で成長できた部分、伸びが足りない部分が 6 年間同じ項目で把握できるため、継続的な運用は不可欠である。

### (3) 今後の課題・改善事項

#### ① 校内体制の整備と拡充

教務部研究科主任を委員長とするプログラム開発チームを校内に組織。人材育成像と探究活動の企画・統括を担当した。組織内に G P 担当（グローバルプログラム）と L P 担当（ローカルプログラム）を配置し、各種プログラムの開発を行った。

本研究開発では、生徒の主体性・多様性・協働性、思考力・判断力・表現力といった「探究」活動に必要な能力を伸ばすため、国内外で様々な体験を積みながら社会の課題を発見し、自分で解決策を考えさせることを目標とした。全教員がこの育成像を共有し、各学年・各教科で身につけるべき能力を意識した指導をすることが重要と感じた。各教科の授業と探究活動の連携が必要で、校内におけるグローバル活動の位置づけが課題となった。

今後は各教科の科会、学年会を通じて全教職員が連携し、横断的かつ全校的なプログラム開発ができるように校内体制を充実させる。また、中高一貫校の特長を活かして中学 3 年生を導入期と定め、生徒の探究活動を充実させることも計画する。

さらに、多くの教員が G P・L P 担当を担当して生徒指導を体験することで、実践から探究活動の意義と学習成果の向上を学べるようにプロジェクト活動を充実させたい。

#### ② 継続的なコンソーシアムの運営

本事業で構築したコンソーシアムとの連携は継続する計画である。世田谷区と併設大学は包括協定を締結し、地域協働活動が盛んであるため、高校生の受け入れにも協力的である。

世田谷区は少子高齢化や環境問題など、現代的な課題を抱えている。このような解決の住民とともに取り組むことで、学んだ知識の活用法を体験的に学ぶことができると考えている。

区内には地域学習支援員となる専門職や N P O 法人活動員など、人材も豊富である。生徒の関心に応じて様々な分野の支援員を用意できる。活動の充実には地域との協働が欠かせない。

また、本校はこども園、小学校、中学校、大学、大学院、ブリティッシュスクール、テンプル大学と同じキャンパス内に校舎が並んでいる。学校間で連携することで、グローバルプログラムをさらに発展させることが可能である。今後は学校間に協働プロジェクト活動も検討したい。

本事業で大学との連携を強化した。世界の動向や生活文化、途上国問題などを大学の研究者から学び、ソーシャルデザインの視点、地域活動法などの実践力も身につけることができた。

最近 2 年間はコロナ禍で中止となったが、大学教員や専門家が計画する海外研修・視察旅行も新たにプログラム化することができた。

高校教育に産学地域が加わることで、様々な可能性を拓けることが出来たと考えている。

一方で、高校は教室での授業が中心で地域との窓口がない。担当者または担当部署を配置することが急務である。グローバル活動と教科学習が連携できるように教務部内での担当が望ましいと考えている。校内組織体制の改善が必要である。

多様な人材を招聘して地域連携指導委員会を構築したため、世田谷区と私立学校の連携は難しくなかった。委員から世田谷区や世界の現代的課題を知り、先進的な取組を知ることができた。

来年度以降の予算も計上しており、これまでの活動実績によりコンソーシアムは継続・発展できると確信している。

#### 【担当者】

担当課	昭和女子大学附属昭和高等学校	TEL	03-3411-5115
氏名	勝間田 秀紀	FAX	03-3411-5532
職名	教諭（教務部教育研究主任）	e-mail	n-sgh@swu.ac.jp

【目標設定シート】

ふりがな	しょうわじょしだいがくふぞくしょうわこうとうがっこう	指定期間	2019～ 2021
学校名	昭和女子大学附属昭和高等学校		

地域との協働による高等学校教育改革推進事業 目標設定シート

1. 本構想において実現する成果目標の設定（アウトカム）							
	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	目標値(年度)	
(卒業時に生徒が習得すべき具体的能力の定着状況を測るものとして、管理機関において設定した成果目標) 地域の福祉や産業などに対する関心をもち、自主的に地域への貢献活動に取り組む生徒の人数						単位：150人	
a	本事業対象生徒：		141人	228人	242人		
	本事業対象生徒以外：		120	126	167人	16人	69人
目標設定の考え方：サービスラーニングで世田谷区のボランティア等に取り組んだ生徒の延べ数							
(高校卒業後の地元への定着状況を測るものとして、管理機関において設定した成果目標) 地域の福祉や産業に対する関心を持ち、積極的に地域の課題に関わろうとする生徒の割合						単位：80%	
b	本事業対象生徒：		100%	92%	100%		
	本事業対象生徒以外：		48%	67%	41%	11%	60%
目標設定の考え方：サービスラーニングを行った生徒のうち、地域の福祉や産業に対して、ボランティアを複数回行い、プランの実践によって地域の課題に関わった生徒の割合							
(その他本構想における取組の達成目標) 公的機関から表彰されたり、公益性の高い校外の大会における参加者数						単位：40人	
c	本事業対象生徒：		208人	125人	119人		
	本事業対象生徒以外：		8	28	57人	4人	29人
目標設定の考え方：ボランティア大賞などサービスラーニングの成果を外部に発表する機会、またはLABO活動をはじめとするグローバルな取組で国内外の大会に参加した人数							



2. 地域人材を育成する高校としての活動指標（アウトプット）						
	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	目標値(年度)
a	(地域課題研究又は発展的な実践の実施状況を測るものとして、管理機関において設定した活動指標) 研究開発に関して地域の企業・団体または国内外の団体等の外部人材が参画した延べ数					単位：40人
	28	31	176	81	317	
目標設定の考え方：地域の企業・団体または国内外の団体等の外部人材が本校のローカルプログラム、グローバルプログラムに参画した延べ数						
b	(普及・促進に向けた取組の実施状況を測るものとして、管理機関において設定した活動指標) 先進校としての研究発表会および、グローバル・ローカルのクロス発表会を行った回数					単位：10回
	7	7	8	7	9	
目標設定の考え方：研究発表会だけでなく、地域に発信した発表会の回数、グローバルプログラムとローカルプログラムの結合化を図るための発表会、中等部に向けた発表会などの回数						
c	(その他本構想における取組の具体的指標) LABO活動などの研究開発において海外の研修に参加した生徒の人数					単位：40人
			35人	0人	0人	
目標設定の考え方：探究活動においてグローバルなテーマに取り組み、海外の研修に自主的に参加した生徒数(必修の選択制研修旅行を除く)						

3. 地域人材を育成する地域としての活動指標（アウトプット）						
	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	目標値(年度)
a	(地域人材を育成する地域としての活動の推進状況を測るものとして、管理機関において設定した活動指標) 本校の構築するコンソーシアムで協働活動や評価等を行う外部団体の延べ数					単位：10団体
	0	0	59人	16団体	85団体	
目標設定の考え方：地域の企業・団体または国内外の団体等の外部人材が本校のローカルプログラム、グローバルプログラムに参画した延べ数						
d	(その他本構想における取組の具体的指標) 研究開発に関して大学教員及び学生等の外部人材が参画した延べ数					単位：30人
	7	10	15人	26人	37人	
目標設定の考え方：昭和女子大学の教員、生徒等の外部人材が本校のローカルプログラム、グローバルプログラムに参画した延べ数						

<調査の概要について>

1. 生徒を対象とした調査について

	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
全校生徒数(人)	592	565	571	574	542
本事業対象生徒数			265	231	375
本事業対象外生徒数			306	343	167

## 都市型社会課題への発信力を育成するクロスサービスマーケティングプログラム

### 背景 ○都市型社会問題

本校が位置する世田谷区は、高齢化、外国人増加、都市型災害対策などの都市型社会問題に対して、「地域・住民が主体となる街づくり」、「区民がいきいきと活動・交流する場づくり」を掲げて対策を進めており、保健福祉や教育など様々な領域と連携した施策や地域住民の区政への参加が求められている。



### 令和3年度の目標

- ①コンソーシアムを活用した生徒への活動支援、連携事業、なによりに高大連携の促進を図る。
- ②地域課題への関心を高め、地域社会と積極的に関わろうとする人材を育成する。
- ③探究プログラムの体系的な構築と他教科との横断的な関連性を高め、論理的な思考力など21世紀型能力・資質の育成を図る。
- ④グローバルプログラムとローカルプログラムのクロス化により探究活動の質の高度化を図る。

### 取組状況

- ・コンソーシアム連携委員会を通じて、グループの個々の活動に応じた地域協働学習支援員を配置。
- ・昭和女子大学主催の高校生向けプログラムを企画・実施した。
- ・生徒が地域への関心を高め、地域の現状を把握して活動にすすめるよう、高1前期に「地域探究」を実施。地域への理解を高められるようにした。
- ・高校3年での活動がスタートし、探究の学びをキャリア形成に活かす教材開発を進め、中高6年間のカリキュラムモデルを構築した。
- ・高校1年では各教科担当による横断的な授業開発を実施し、データ分析など探究スキルの育成をはかった。
- ・LABO2のジェンダーかるた頒布やLABO4のフェアトレード実践など、グローバルプログラムでの課題解決の実践活動を地域で考案・実施した。
- ・グローバルな活動は感染症対策のため停滞しているが、地域での活動にシフトし、学びを深めている。

### 成果と課題

- ・コーディネーター・管理機関を軸にコンソーシアムの役割分担を明確化し、地域協働学習実施支援員をグローバルテーマごとに依頼することで、専門的な支援や地域での活動開拓や人材の掘り起こしを進めることができた。本格的な活動前に「地域を知る活動」を設定して、生徒の地域意識を醸成することで、ローカルへの志向性を高めることができた。他高校や大学・外部団体との連携、特に区内の団体との連携数は飛躍的に増加し、課題研究の実践や助言、評価等に多数の外部人材が参画するようになった。
- ・「世の光となれるグローバル人材」、「主体的に課題の解決に向かう責任感と意欲あふれる人材」の育成をめざした段階的なプログラムを構築した結果、他者との協働、責任感、ローカル・グローバルへの視座、キャリアデザイン力等の指標では3年間で伸長が見られた。LABO2のジェンダーかるたなど地域での活動が継続的に行われている。
- ・高1前期に世田谷区を知る調査研究基礎、高3で活動から得た学びを振り返りキャリアデザインを構築する進路探究を配置し、地域の課題への理解促進を進めた。地域課題の自分事化によって、自分の将来につなげていく流れができ、3年間を無駄なく用いた系統的な探究プログラムを構築することができた。スキル・行動目標による評価指標を設け、本校の育成した生徒像を総合的・体系的に育成する評価体制を構築した。

【教育課程表】

第19条(教育課程)  
別表1(第19条関係)教育課程表

本…本科コース  
G…グローバル留学コース 2019年度新設の学校設定科目  
S…スーパーサイエンスコース (2019年度以降入学生用)

教科	科目	単位数	前期は本科と同じ、後期はカナダへ留学													
			1年			2年			3年			計				
			本	G	S	本	G	S	本	G	S	本	G	S		
国語	○国語総合	(4)	5		3							5	留	3		
	現代文B		4			3	3	2	3	4	2	6	7	4		
	選択	◇古典A		2			*2	*2	2				0~2	0~2	2	
		◇古典B		4			*4	*4		*4(F)	*4(F)	4(F)	0~4	0~4	0~4	
		◇古典演習								4(E)	4(E)	4(E)	0~4	0~4	0~4	
		◇現代文演習								4(G)	4(G)	4(G)	0~4	0~4	0~4	
◇現代文講読									2(J)	2(J)		0~2	0~2			
◇小論文								2(I)	2(I)	2(I)	0~2	0~2	0~2			
地理歴史	○世界史A	(2)	2		2							2		2		
	○世界史B	(4)						4					4			
	△日本史A	(2)				*2	*2	*2				0~2	0~2	0~2		
	△日本史B	(4)				*4(A)	*4(A)		*4(D)	*4(D)	4(D)	0~4	0~4	0~4		
	△地理A	(2)				*2	*2	*2				0~2	0~2	0~2		
	△◇日本現代史					*2						0~2				
	選択	◇世界史B		4						*4(D)		4(D)	0~4		0~4	
		◇地理B		4						4(G)	4(G)		0~4	0~4		
		◇日本史演習								2(J)	2(J)		0~2	0~2		
		◇世界史演習								2(J)	2(J)		0~2	0~2		
◇地理演習									2(I)	2(I)	2(I)	0~2	0~2	0~2		
◇日本史									4(F)	4(F)		0~4	0~4			
◇世界史								4(F)	4(F)		0~4	0~4				
公民	○現代社会	(2)	2		2							2	留	2		
	選択	◇倫理							*2(C)	*2(C)		0~2	0~2			
		◇政治・経済								*2(B)	*2(B)		0~2	0~2		
		◇政治経済演習								2(I)	2(I)		0~2	0~2		
◇実践社会								2(J)	2(J)		0~2	0~2				
数学	○数学I	(3)	4		4							4	留	4		
	数字A	(2)	2		3							2	留	3		
	数字II		4									4	4	4		
	選択	◇数学B		2									0~2	0~2	3	
		◇数学III		5						4(G)+2(H)		0~6	0~6	0~6		
		◇数学I A演習								*2(I,J)	*2(I,J)	2(I)	0~4	0~4	0~2	
◇数学II演習								*2(B)	*2(B)		0~2	0~2				
◇数学演習											0~4	0~4	0~4			
理科	○物理基礎	(2)	2		2	*2	*2					0~2	0~2	2		
	○化学基礎	(2)	2		2							2	留	2		
	○生物基礎	(2)	2		2							2	留	2		
	◇実験演習				1									1		
	選択	◇地学基礎		2			*2	*2					*2(J)	0~2	0~2	0~2
		◇物理		4						*4	4(F)	4(F)	*4(F)	0~4	0~4	0~4
		◇化学		4			*4(A)	4		*4(D)	4(D)		0~4	0~4	4	
		◇生物		4			*4(A)			*4(F)	4(F)	*4(F)	0~4	0~4	0~4	
		◇地学		4						*4(D)	4(D)	4(D)	0~4	0~4	0~4	
		◇精選物理								2(J)	2(J)	*2(J)	0~2	0~2	0~2	
◇精選化学								4(E)	4(E)	4(E)	0~4	0~4	0~4			
◇精選生物								2(J)	2(J)	*2(J)	0~2	0~2	0~2			
保健体育	○体育	(7-8)	2		2	3	3	3	2	2	2	7	5	7		
	○保健	(2)	1		1	1	1	1				2	1	2		
	△音楽I	(2)	*2		*2									2		
芸術	△美術I	(2)	*2		*2									2		
	△書道I	(2)	*2		*2									2		
	選択	◇音楽II		2									0~2	0~2		
		◇書道II		2									0~2	0~2		
		◇美術II		2									0~2	0~2		
		◇音楽								4(D)	4(D)		0~4	0~4		
◇美術									4(D)	4(D)		0~4	0~4			
◇書道								4(D)	4(D)		0~4	0~4				
◇工芸								2(H)	2(H)	2(H)	0~2	0~2	0~2			
外国語	○コミュニケーション英語I	(3)	4		4							4	留	4		
	コミュニケーション英語II		4			5	4	4				5	4	4		
	コミュニケーション英語III		4						5	4	5	5	4	5		
	英語表現I		2	2				1			1	2		2		
	英語会話		2									0~2				
	選択	◇英語表現II		4			2(B)						0~4	3		
		◇英語総合演習					4(A)	3					0~4	0~4	0~4	
		◇英語演習								4(D)	4(D)	4(D)	0~4	0~4	0~4	
		◇G英語演習								4(E,F)			0~4			
		◇英会話									2(H)			0~2		
◇グローバル進学									2(H)	2(H)	2(H)	0~2	0~2	0~2		
◇中国語								2(H)	2(H)	2(H)	0~2	0~2	0~2			
◇スペイン語								2(H)	2(H)	2(H)	0~2	0~2	0~2			
◇韓国語								2(H)	2(H)	2(H)	0~2	0~2	0~2			
家庭	○家庭基礎	(2)			2	2	2	2				2	2	2		
	選択	◇アソシオン造形基礎							4(G)	4(G)	4(G)	0~4	0~4	0~4		
		◇フードデザイン								4(F)	4(F)	4(F)	0~4	0~4	0~4	
◇子どもの発達と保育								2(H)	2(H)	2(H)	0~2	0~2	0~2			
情報	○社会と情報	(2)	2		2							2	留	2		
	○情報の科学	(2)												2		
総合的な探究の時間	選択	◇情報実習							2(J)	2(J)		0~2	0~2			
			(3-6)		1	1	1	1	1	1	1	3	3	3		

○は必修科目、△は選択必修科目である。  
 ◇は学校設定科目である。  
 ＊の記号を付したものは、同一の記号の履修するものは、同一の科目を選択する。  
 ・・・の記号を付したものは、同一の記号の履修するものは、同一の科目を選択する。  
 ・数学Ⅲを履修する場合は、G選とH選の両方を履修して選択し、重ねて履修することはない。  
 ・音楽Ⅱ・美術Ⅱ・書道Ⅱはそれぞれ同一名称の科目を選択する。

## 2 - 研究開発概要

### (1) 研究開発構想名

都市型社会課題への発信力を育成するクロスサービスラーニングプログラム

### (2) 研究概要

本校では「世の光となろう」「Think global, Act local」を合言葉に、様々な課題を世界規模で考え、地域規模で実践していくグローバルな人材の育成を進めてきた。それをもとに、本事業では育成するグローバル人材像・人物像を、以下のように設定した。

ア.「『SDGs』・『都市型社会課題』への関わりを軸に、グローバルな視点とローカルな視点を備えた世の光となれるグローバル人材」

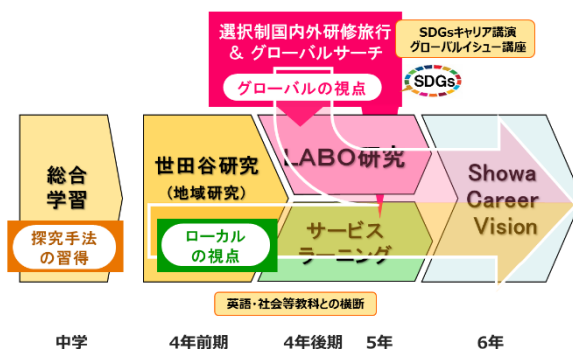
イ.「他者との協働を通じて、主体的に課題の解決に向かう責任感と意欲あふれる人材」

本人材を育成するため、「世田谷研究(世田研)」、「グローバルサーチ(選択制海外研修旅行とその事前事後学習)」、「LABO研究」、「サービスラーニング」、「Showa Career Vision キャリアビジョン」の段階的なプログラムを設定し、他者との協働のなかで持続可能な共生社会の実現に向けたアクションプランを提案する活動を通じてグローバル人材の育成をめざすことを目標とする。

活動の主軸となるのは地域型探究学習プログラムである「LABO研究」「サービスラーニング」で、地域活動やボランティアへの参加、企業・商店街との連携、社会への提言などを実践の舞台として、世田谷区が抱えている都市型の社会課題や、ジェンダーなどのグローバルな課題の解決策提案をめざす活動である。「LABO研究」はグローバルな社会課題をテーマとするグローバル課題解決を志向する研究、サービスラーニングは世田谷区の抱える課題を解決するローカルを志向する活動として位置づけ、生徒は「LABO研究」「サービスラーニング」のどちらかを選択(LABO研究は選抜制)して探究活動を行う。

これらの活動に、ローカルとグローバルの両視点を加えることで、グローバルな視点で課題解決

の実践に取り組める人材の育成につながるのが本プログラムの構想である。地域の魅力や課題を探る「世田谷研究」を通じて、地域課題解決に必要な知見や方法論を学びながら地域の課題を自分事として捉えることのできる「ローカルの視座」を育む。また、海外フィールドワークである選択制国内外研修旅行と、その事前事後の調査学習(「グローバルサーチ」)によって、海外での知見やSDGsへの理解などの視野を広げて考察ができる「グローバルの視座」を育む。地域課題解決型探究学習にグローバルな視座とローカルな視座を交錯(クロス)させて思考を深めることによって、体験に基づく学びや課題意識、広い視野に目を向けた考え方を、地域的な視点・課題意識で再構成させていくようにする。このクロス化によ



て、より広く深い視野をもった実践的な学びを構築し、グローバルな視点で課題解決の実践に取り組める人材の育成につなげることができる。さらに、高校3年次に「キャリアビジョン」の時間を設定し、探究での学びを活かして将来像を描く活動を行う。3年間の系統的な探究のカリキュラムを構築し、生徒自身が主体性をもって世の光となろうとする人材を育成する探究学習プログラムである。

### (3) 研究開発の内容

#### ア. 実施日程 (回数)

実施項目	実施日程											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
A. ローカルプログラム 世田谷研究 サービスラーニング	← 世田谷研究(高1) →			← サービスラーニング(高2) →			← サービスラーニング(高1) →			← →		
B. グローバルプログラム LABO 研究	← →			← →			← 企業訪問・地域訪問 →			← 講演 →		
C. 高3 進路探究 Showa Career Vision	← 学びの履歴書 →			← →			← SDGs 課題 →			← →		

#### イ. 開発するプログラムの内容

##### ① 生徒数とクラス数 (2021年度)

	生徒数			探究別	
	1年	2年	3年	S L	LABO
本科コース	133	126	134	107	11
その他	46	53	50	107	16
計	179	179	184	214	27

##### ② 研究開発の内容や地域課題研究の内容について

今年度のプログラムは以下の通りである。

#### A. ローカルプログラム

本プログラムは、生徒自身が地域課題の発見と解決に、大学や自治体と協働で解決策を考え、地域実践を行う地域活動型探究学習である。1年生は地域を知り、ボランティア活動を行って地域課題を深める段階、2年生は自分が関心を持った地域課題の解決策を住民に提案して実行する段階となる。

本事業で形成したコンソーシアムにより、自治体、各種団体、企業、大学の協力を得ながら生徒の探究活動（課題発見、ボランティア活動、課題解決策提案、協働）を進める。

#### a. 「世田谷研究」高校1年前期

地域探究の基礎を学びながら、地域理解を深める活動（地域の魅力や課題を知る地域研究）に取り組む。私学である本校は、世田谷区外からの通学者が多く、世田谷区を地元として意識する生徒が少ないため、「地元」としての世田谷区の魅力や課題を発見する活動を行い、後期のサービスラーニングの基礎として位置づける。

b. 「サービスマーケティングⅠ」 高校1年後期

地域課題解決の探究活動を開始。地域でのボランティア活動を通じて、地域の抱える課題を知り、高校生の自分が地域のために解決したいと考える課題を設定する活動を行う。地域でのボランティアと座学での調査や振り返りを繰り返しながら課題を深掘りし、具体的な解決方法を導けるようにする。

c. 「サービスマーケティングⅡ」 高校2年

高校1年次で育んだ国際的素養・SDGsなど地球全体の課題への意識を基礎に、ボランティア活動などを通じて把握した地域課題について、その課題解決のためのアクションを起こす活動に取り組む。

1月に行われるマイプロジェクトへの出品とその応募の課程での地域 Summit 参加、校内での中学3年、高校1年生に向けての成果発表などを通じて成果を振り返りまとめを行う。

B. グローバルプログラム (GP)

a. 「LABO 研究」 (高校1・2年混合で実施)

SDGs の理念を軸として、キャリアデザインに関するより深く広い国際的課題から4つの研究テーマを設定し、課題研究を行う活動である。高校生40名(1・2年生混合で各10名程度)を4つの小グループ(LABO)に分け、コミュニケーション力や多面的視点などの国際的な素養と自分の将来に引き寄せて課題を考えるキャリアデザイン力を育成するプロジェクト研究に取り組む。

企業や大学から講師を招聘して日常的に生徒指導を行い、夏季海外研修旅行にも同行するため、非常に深い学びにつながっている。

指定3年間のうち後半の2年間は海外研修を実施できていない。その代わりに、地域での活動や地域への提言に活動の重点をシフトし、グローバル事業でのコンソーシアムを活用して、地域(特に世田谷区)での活動・発信を進めている。一例をあげると、

LABO2による「ジェンダーかるた」作成と地域の児童への普及活動

LABO3による世田谷区の企業訪問

LABO4によるフェアトレード企業・団体支援 などである。

b. グローバルイシュープログラム (SDGs キャリア講演)

世界規模の課題に関する自分の意見をまとめる機会を設けてグローバルな視野を育み、将来リーダーとなる課題解決力やキャリアデザイン力などを身につけるために、SDGsを主テーマとするキャリアや諸課題に関する講演会を実施した。

C. Showa Career Vision 高校3年次

a. 高校3年生の「総合的な探究の時間」として、週1時間設定している。これまで行ってきた探究での学びを自らの将来や進路に生かすための実践として行う。これまでの自身の経験と学びをまとめ、自己のキャリアデザインを作成していく活動として進めている。世の光となれる自身の将来像を思い描き、そこに到達するために踏むべきキャリアステップを「学びの履歴書」「学びの設計書」の作成を通じて描いていく活動である。

- b. 非認知能力育成のため、SDGsにも関わる内容で、考えを深められる明確な答えのないテーマを設定し、ディベートや意見の共有を行うことで、本人の強みや改善点などを認識できるようにする。

### ③ 事業の評価

#### A. 因子評価

探究活動の効果を検証するため、2年間の探究活動において6つの育成スキル・5つの行動目標を設定し、各因子の自己評価を活動の前後で実施した。6スキル・5行動目標を生徒の成長を把握する因子として活用し、各因子における達成度や意欲などを用いて成果や課題を把握した。因子を設定したことによって、異なる活動を行っているサービスマーケティング・LABO（高校1年・高校2年）での成長度合いを体系的に把握することができ、3年間（あるいは6年間）の探究活動での学びを系統的に整理することが可能となった。また、その学年ごとの足りないスキル・行動、成長が見られたスキル・行動を同じ指標で測れることは、6年間の生徒の成長を図る上で有効な分析が可能となった。

各因子は次の通りである。

6スキル	「受け取る力」 …聞く力、観察力、自己理解 「見つける力」 …課題発見力、発想力、創造力、自己の強みを見つける力 「考える力」 …論理的思考力、問う力、課題解決力、多面的視野 「つながる力」 …仲間との協働、地域との協働、世界とのつながり、考えと考えをつなぐ 「伝える力」 …プレゼン力、質問力、発信力 「より良くなる力」 …挑戦力、向上心、価値を学ぶ力、キャリアデザイン力
5行動目標	「自己を知り、アイデンティティを確立しようとする」 「世界や地域のできごとに関心を持ち、考えを表現しようとする」 「失敗を恐れずチャレンジしようとする」 「責任感を持ち、リーダーシップを発揮しようとする」 「多様性を認め、寛容な他者理解の心をもつ」

また、株式会社リバネス 教育総合研究センターが実施している探究活動調査に参加し、探究活動および学校活動について質問法による自己評価を実施した。この評価は本校の中学生と高校生に実施し、知的関心や探究への姿勢などの指標で中学段階との成長度合いの違いを比較できる。また、本調査に参加している他高校との比較も可能で、本校独自の取組みがどのようなスキルや姿勢をのばすことにつながるかを効果的に測定することができた。

#### B. ルーブリック評価

探究活動を進めるうえで、探究のサイクルを進めたり、プレゼンテーションを実施したりする際には、ルーブリックを使用し、生徒による自己評価や相互評価、教員による評価に活用した。学年によって一部異なるが、基本的なものを以下にあげる。

サービスラーニング 評価基準				
評価項目	資質・能力	3 (A)	2 (B)	1 (C)
主体性	<b>より良くなる力</b> 研究を自分事にし、向上心を持って取り組む力	自分が疑問を抱くテーマを扱っており、研究テーマから <b>関連する事柄にも興味を広げている。</b>	自分が疑問を抱くテーマを扱っており、 <b>そのテーマに関心を持って取り組んでいる。</b>	自分が疑問を抱くことがあってもあったが、進んで <b>テーマを深めるところまでいっていない。</b>
課題意識 テーマ設定	<b>見つける力</b> 自分の関心のある事、身の回りのこと、興味関心・疑問点から課題を発見する力	社会的な課題を理解したうえでテーマを設定しており、研究テーマから <b>関連する事柄にも興味を広げている。</b>	社会的な課題をもとにテーマを扱っており、 <b>そのテーマに関心を持って取り組んでいる。</b>	社会的な課題をテーマとして設定しているが、課題が抽象的である。進んで <b>テーマを深めるところまでいっていない。</b>
情報収集力 ・情報分析	<b>見つける力</b> フィールドワークの力を発揮。必要な情報を取捨選択する力	課題に関わる情報を文献などの資料とボランティア活動での情報を結び付けて <b>広く収集し、そこから自分の主張を示そうとしている。</b>	課題に関わる情報を文献などの資料とボランティア活動での情報の両方から <b>おおむね収集している。</b>	課題に関わる情報を <b>十分収集できていない。</b> または体験から得た情報のみなど、文献とボランティアのどちらかにかたよっている
	<b>考える力</b> 集めた情報を整理し、分析する力	テーマの <b>問題点や対策プラン</b> 、その効果が <b>必要なデータを適切に処理して述べられており、要点をわかりやすく伝えている。</b>	テーマの <b>問題点や対策プラン</b> 、その効果が <b>必要なデータを用いて述べられている。</b>	社会問題に関する <b>データや対策プランの効果に関する裏づけが薄い。</b>
	メディアカード	<input type="checkbox"/> 規定枚数より十分多い	<input type="checkbox"/> 規定枚数を超過している	<input type="checkbox"/> 規定枚数を作成していない
考察・論理性	<b>考える力</b> 自分の主張を、論理的に考察しまとめる力、自分の主張に説得力を持たせる。	・自分の立てた <b>研究課題を明らかにするために仮説を立て適切な調査・対策プランの構築</b> を行っている。	・自分の立てた <b>研究課題を明らかにするために仮説を自分なりに立て、おおむね適切な調査・対策プランの構築</b> を行っている。	・ <b>研究課題と対策プランに飛躍が見られる。</b> または <b>情報が羅列されているだけで論証が十分でない。</b>
		<b>研究課題(問い)や仮説に対する考察</b> が、研究結果にもとづいてしっかりと導き出されている。	研究結果にもとづいた <b>考察が自分なりに導き出されているが、グループ課題や仮説との整合性は今一歩である。</b>	考察が <b>感想にとどまっていたり、述べられていない。</b> または <b>飛躍が見られたり、課題や仮説と対応していない。</b>
提案力 発想力 創意工夫	<b>つながる力</b> 課題解決のための実践への発想力、地域とつながる力	課題解決に結びついた <b>独創性のある提言(対策プラン)を考案し、地域や周囲を巻き込んだ実践</b> ができています。	具体的な提言(対策プラン)を示しているが、 <b>課題解決や現状解決への効果はいま一歩である。</b>	対策プランが <b>抽象的、あるいはありふれた内容であったり、現実性に乏しい。</b>
協働性	<b>つながる力</b> 周りや協働して新たな知見やアイデアを形にしていける力を養う。周りに人に寄り添う心を養う。	発表や調査について、グループ内で <b>役割を分担したり、それぞれが役割をしっかりと果たしている。</b>	発表や調査について、グループ内で <b>役割を分担したり、それぞれが役割をおおむね果たしている。</b>	発表や調査について、グループ内で <b>役割分担が不明確だったり、一部の生徒のみの活動にとどまっています、グループ全体の活動になっていない。</b>
		地域の関係団体と <b>情報共有や解決案の共有</b> が行われていて、 <b>地域と一緒にまたは地域にねざした解決案の提案</b> ができています。	地域の関係団体と <b>情報共有や解決案の共有</b> がおおむね行われているが、 <b>解決案やその改善に地域の方の存在が薄い。</b>	地域の関係団体と <b>情報共有や解決案の共有が不十分で、解決案やその改善に地域の方の存在があまりみられない。</b>

#### ④ 生徒用ポータルサイトの開設

サービスラーニングでは、地域に出て活動する生徒と教室内で座学を行う生徒が同じ時間に混在しており、その日のワークの頒布が難しかった。そのため、探究活動用のポータルサイトを作成し、学年ごとに情報の一元化をはかった。生徒はこのサイトを見れば活動がスムーズに進めることができるほか、教員の活動の共有、活動先一覧作成など事務作業の一元化などがこれまでよりもはるかにスムーズになり、大いに有効であった。

サイトの主な内容は次の通りである。

- A. 総合的な探究の時間の活動内容の提示
- B. 当日のワークシート・テキストのダウンロード
- C. 年間スケジュール、その時間の活動スケジュールの提示
- D. ループリック（探究用・発表用）の提示
- E. 外部活動の登録、依頼状の作成フォームリンクの提示
- F. 評価アンケートのリンク





**サービスラーニング**

各学年のサイトから今日の活動を確認しよう。探究スケジュール(ロードマップ)は[こちら](#)から確認できます。

**4年生**  
ボランティアを通して地域の真の課題を発見しよう。

**5年生**  
地域課題を解決するアクションを実践しよう。

**総合探究の目標**

- ・活動の概要
- ・6つのスキル
- ・5つのマインドターゲット
- ・2年間の探究スケジュール

**ルーブリック**

- 探究ルーブリック
- 発表ルーブリック

**活動登録**

活動登録 (依頼状作成)

①

⑤ 成果の普及・実績

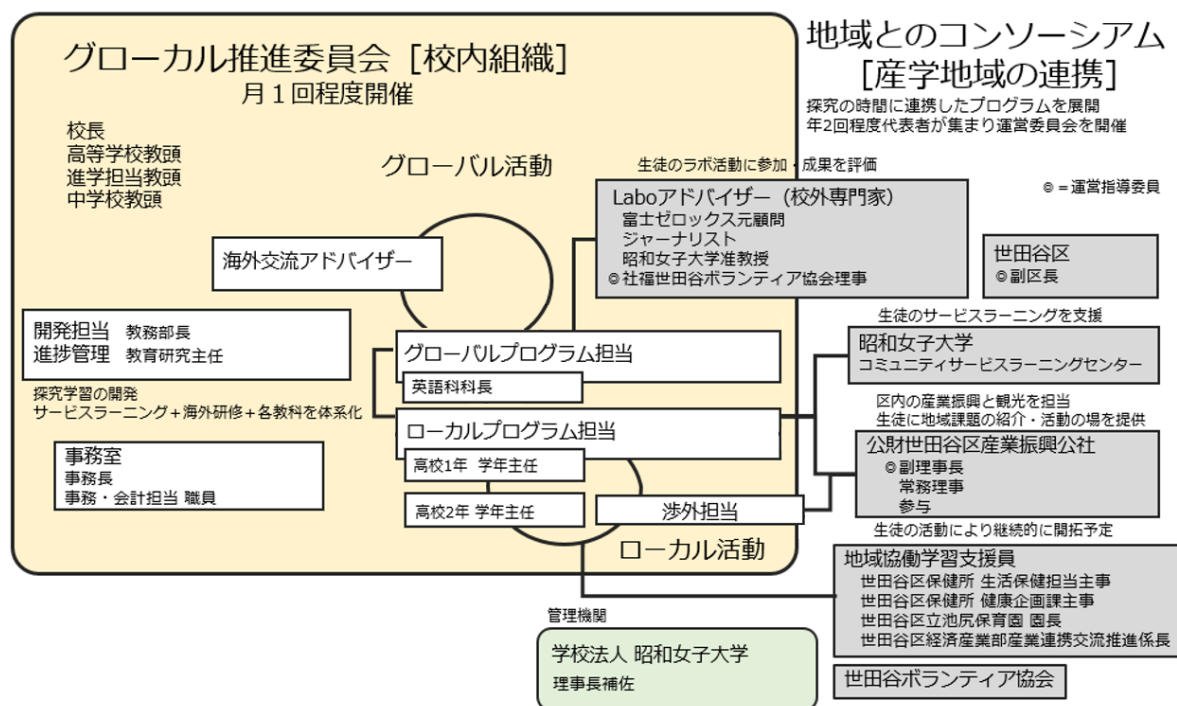
- A. サステナブル・ブランド国際会議 2022 ブロック大会 (2021 年 10 月 31 日) 参加。
- B. オンライン文化祭 (令和 3 年 11 月 14 日) で LABO 研究の成果報告を配信。協力いただいた地域団体・グローバル指定校・アソシエイト校に通知)
- C. 2021 年度 全国高校生フォーラム (令和 3 年 12 月 19 日) に LABO2 が参加。
- D. SGH・グローバル等カンボジア合同研究会 (令和 4 年 1 月 9 日 和歌山信愛高等学校の主催でオンライン開催)
- E. 文部科学省主催「全国高校生フォーラム」 (令和 4 年 1 月 25 日) オンライン発表会に参加。本校は協力校として生徒が B グループの司会を担当した。
- F. グローカル探究成果発表会 (令和 3 年 2 月 22 日) コンソーシアム関係者、区民などを招待しサービスラーニングの成果報告をオンラインにて開催。
- G. 総合的な探究全校発表会 (グローバル探究成果発表会) (令和 4 年 2 月 18 日) LABO 研究成果発表・サービスラーニング代表グループによる成果発表。



### 3 - 事業実施体制

#### (1) コンソーシアム概要

##### ア. 概要図



##### イ. 高等学校と地域との協働によるコンソーシアムの体制

機関名	機関の代表者
公益財団法人 世田谷区産業振興公社	宮崎健二 副理事長
アクティブ・シティズンシップ研究所	興梠 寛 代表
世田谷区 生活文化部 まちづくり推進係	石井貴和 係長
世田谷区 経済産業部 産業連携交流推進係	佐藤智和 係長
三軒茶屋銀座商店街振興組合	飯島祥夫 理事長

##### ウ. 活動日程・活動内容

活動日程	活動内容
7月21日	世田谷区 岩本 康 副区長 運営指導委員への就任依頼
9月29日	公益財団法人世田谷区産業振興公社小田桐庸文 常任理事と地域学習支援員の推薦・調整
10月5日	東京都動物愛護相談センター 業務担当 小林和弘氏に講演会講師依頼
10月7日	世田谷区 環境政策部 清水優子 部長に地域学習支援員派遣依頼
10月8日	世田谷区子ども・若者部子ども家庭課 中西明子 課長、子ども・子育て支援担当係 青木千穂 係長に地域学習支援員派遣依頼
11月17日	公益財団法人 世田谷区産業振興公社 宮崎健二 副理事長、小田桐庸文 常任理事に人事異動に伴う委員変更・就任依頼

- ① 運営指導委員会は令和4年2月22日に実施した。
- ② アンケート調査結果に基づき、生徒が関心を持つ地域課題を抽出。4つのカテゴリーに分類し、世田谷区から地域協働学習支援員の推薦を受けた。
- ③ 各支援と面談し、本事業の目的を説明。カテゴリー別の講演とサービスラーニングの指導を依頼した。
- ④ 令和3年10月26日には、地域協働学習支援員を招聘して以下のテーマで出前授業を行った。
- テーマ「インフラ」 世田谷区の住み良い『まち』づくり（環境・交通・防犯・観光）
- テーマ「こども」 世田谷区の子育て支援の取り組みと高校生にできること
- テーマ「食」 世田谷区の問題について（ゴミ・フードロス）
- テーマ「動物愛護」 東京都の動物愛護の取り組みと高校生にできること
- ⑤ 海外研修を実施できないため、紛争地で人道支援活動を行った JICA 関係者による講演会を令和4年1月25日にオンラインで行った。
- テーマ1 看護師・助産師として海外協力隊員で活動して身につけた力
- テーマ2 海外協力隊員として活動して身につけた力 ～途上国支援の視点から～

**(2) カリキュラム開発専門家、大学教員、地域協働学習実施支援員**

**ア. 指定した人材・雇用形態・高等学校における位置付け**

分類	氏名	所属・職
カリキュラム開発専門家	會川 恵志	昭和女子大学附属昭和高等学校
海外交流アドバイザー	—	—
LABO アドバイザー	日比谷 武	上智大学 特任教授
〃	伊藤 純	昭和女子大学 教授
〃	米倉 雪子	昭和女子大学 准教授
〃	興 梶 寛	アクティブ・シティズンシップ研究所代表
地域協働学習実施支援員	大久保舜海 石綿 紅里	世田谷区 環境政策部環境計画課
〃	青木 千穂 椎名 和美	世田谷区 子ども・若者部子ども家庭課
〃	太田和信也 仲田 啓太	世田谷区 清掃・リサイクル部事業課
〃	小林 和弘	東京都動物愛護相談センター

## イ. カリキュラム開発等専門家の活動日程・活動内容

実施日程	実施内容
4月20日	第1回グローバル委員会において今年度の目標の確認
5月27日	今年度の実施計画について管理機関の理事長補佐と会議
6月1日	5, 6限1年・2年の「総合的な探究の時間」の授業見学後授業担当者と意見交換
6月8日	企画会出席 最終年度で完成すべき項目について確認
6月10日	科長会出席 教科横断カリキュラムについて指導・助言及び協議
6月15日	第1回グローバル推進委員会出席
6月22日	教頭、教務部長とカリキュラム開発について協議及び助言
7月13日	ルーブリック実施状況調査
7月17日	LABO4タイ在住NGO伊能氏とのZOOMミーティング参加
7月29日	教育研究主任と横断型授業・総探の時間の構築について協議・助言
9月28日	管理機関理事長補佐・中学、高校教頭2名とコンソーシアム開催準備及び今後の活動の進め方について協議・助言
9月30日	教科横断型授業の実施について学年主任と協議・助言
11月2日	「総合的な探究の時間」カリキュラム作成
11月13日	1年生サービスラーニング今後のスケジュールに関して1年生担当教員と協議
11月30日	学校訪問対応 岐阜県立岐阜工業高等学校：科学技術工学科主任の先生方とグローバル地域連携の実際、発信の実際、広報活動等について意見交換
12月2日	グローバルコンソーシアム組織について管理機関理事長補佐と連絡協議
12月16日	中学校「総合的な学習の時間」計画作成
1月13日	高等学校「総合的な探究の時間」計画立案
1月18日	現行の「総合的な学習の時間」について各学年の先生に現状聞き取り
1月20日	1年生教科横断型授業見学
2月1日	「総合的な探究の時間」計画提出
2月22日	「グローバル型成果発表会」「運営指導委員会」出席
3月10日	観点別MG出席 指導助言
3月15日	3観点評価について教務部長と協議・助言

## ウ. 実施日程・実施内容（管理機関）

今年度も地域協働学習支援員の実績・人脈を活用し、区内で活動やヒアリングができる団体を効率的に開拓した。

7/21（水）訪問先：世田谷区 岩本 康 副区長（場所：世田谷区役所第1庁舎3階 副区長室）

目的：運営指導委員への就任依頼

9/29（水）訪問先：公益財団法人世田谷区産業振興公社小田桐庸文 常任理事（場所：世田谷区産業振興公社）

目的：地域学習支援員の推薦・調整

10/5（火）訪問先：東京都動物愛護相談センター業務担当小林和弘氏（場所：東京都動物愛護相談センター）

目的：講演会講師依頼

10/7（木）訪問先：世田谷区 環境政策部 清水優子 部長（場所：世田谷区 二子玉川分庁舎）

目的：地域学習支援員派遣依頼

10/8（金）訪問先：世田谷区子ども・若者部子ども家庭課 中西明子 課長、子ども・子育て支援担当係 青木千穂 係長（場所：世田谷区第1庁舎5階）

目的：地域学習支援員派遣依頼

11/17（水）訪問先：公益財団法人 世田谷区産業振興公社 宮崎健二 副理事長、小田桐庸文 常任理事  
 （場所：世田谷区産業振興公社）  
 目的：人事異動に伴う委員変更・就任依頼

- ① コンソーシアム運営協議会は令和4年2月22日に実施した。
- ② アンケート調査結果に基づき、生徒が関心を持つ地域課題を抽出。4つのカテゴリーに分類し、世田谷区から地域協働学習支援員の推薦を受けた。
- ③ 各支援と面談し、本事業の目的を説明。カテゴリー別の講演とサービスラーニングの指導を依頼した。
- ④ 令和3年10月26日には、地域協働学習支援員を招聘して以下のテーマで出前授業を行った。
  1. テーマ「インフラ」 世田谷区の住み良い『まち』づくり（環境・交通・防犯・観光）
  2. テーマ「こども」 世田谷区の子育て支援の取り組みと高校生にできること
  3. テーマ「食」 世田谷区の環境問題について（ゴミ・フードロス）
  4. テーマ「動物愛護」 東京都の動物愛護の取り組みと高校生にできること
- ⑤ 海外研修を実施できないため、紛争地で人道支援活動を行った JICA 関係者による講演会を令和4年1月25日にオンラインで行った。
  1. テーマ1 看護師・助産師として海外協力隊員で活動して身につけた力
  2. テーマ2 海外協力隊員として活動して身につけた力 ～途上国支援の視点から～

### （3）運営指導委員および運営指導委員会

#### ア. 運営指導委員会の体制

氏名	所属・職	備考
岩本 康	世田谷区 副区長	行政機関
小田桐康文	公益財団法人世田谷産業振興公社 副理事長	協力機関
興 梶 寛	アクティブ・シティズンシップ研究所代表	学識経験者
真下 峯子	昭和女子大学学長 昭和女子大学附属昭和高等学校 校長	学校経営責任者
保坂 邦夫	学校法人昭和女子大学 理事長補佐	管理機関

#### イ. 活動日程・活動内容

活動日程	活動内容
令和3年7月21日	岡田副区長へ、人事変更による運営指導委員への就任依頼
令和3年9月29日	後期活動の確認、協力機関・新たな地域協働学習実施支援員について確認
令和3年11月17日	公益財団法人 世田谷区産業振興公社へ、宮崎健二 副理事長、小田桐庸文 常任理事に人事異動に伴う委員変更・就任依頼
令和4年2月22日	コンソーシアム運営協議会（一部オンライン併用）

## 4 - グローバルプログラム（1年生・2年生）

### LABO 研究 — グローバルなキャリアデザインに関する課題解決プロジェクト —

#### （1）目的

SDGs の理念を軸に、キャリアデザインに資する国際的課題から 4 つの研究テーマを設定し、課題研究を行う。グローバルな視点で社会参加活動の重要性を学び、将来グローバルリーダーとして活躍できる課題解決力、コミュニケーション力、キャリアデザイン力などの素養を身につける。活動で育んだ素養や視野、体験を、地域課題研究「サービスラーニング」と結びつけ、活動に深まりと広がりをもたせる。

#### （2）概要

高校生 40 名（1・2 年生混合で各 10 名程度）を 4 つの小グループ（LABO）に分け、コミュニケーション力や多面的視点などの国際的な素養と自分の将来に引き寄せて課題を考えるキャリアデザイン力を育成するプロジェクト研究に取り組む。

企業や大学から講師を招聘して日常的に生徒指導を行い、夏季海外研修旅行にも同行するため、非常に深い学びにつながっている。各 LABO とテーマは以下の通り。

#### LABO1 次世代を担う私たちが考えるキャリアデザイン

指導：上智大学 日比谷 武 特任教授 海外連携先：アメリカ・チャールストン

グローバルに活躍するために必要なキャリアデザインとは何かを研究する。  
アメリカ南部のチャールストンと交流し、現地の大学生と共同で研究を進めた。

#### LABO2 日本人のジェンダーギャップの研究

指導：昭和女子大学 伊藤 純 教授 海外連携先：フィンランド・ヘルシンキ

男女の社会的な性差であるジェンダーギャップについて研究する。  
日本の女性を取り巻く環境を調査し、個々にテーマを設定して研究を進めた。

#### LABO3 海外で活躍する日本人リーダーの研究

指導：昭和女子大学 米倉 雪子 准教授 海外連携先：カンボジア プノンペン、シェムリアップ

グローバルに活躍するリーダーに必要な資質とは何か、  
カンボジアの日本人起業家、現地の高校生たちとの交流を通じて知識や情報を深めた。

#### LABO4 多文化共生とボランティアの可能性

指導：アクティブ・シティズンシップ研究所代表 興梠 寛 先生 海外連携先：タイ・チェンライ

多文化共生社会とボランティアの可能性を、SDGs と関連づけながら考察した。  
研修予定地タイの抱える課題と支援のあり方について個々にテーマを設定して研究を進めた。

## LABO1 次世代を担う私たちが考えるキャリアデザイン

指導者：上智大学 日比谷 武 特任教授

### (1) 年間指導計画・実施方法

時期	活動項目	内容	
学習内容の流れ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・探究学習の手法を学習する</li> <li>・情報を適切に収集する力を養う</li> <li>・テーマ設定のための背景知識の収集</li> <li>・フィールドワークの計画</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アカデミックスキルトレーニング (AST)                             <ul style="list-style-type: none"> <li>○探究と調べ学習の違い</li> <li>○ロジカルシンキングとは (AST1)</li> <li>○思考フレーム (AST2)</li> <li>○情報収集の仕方 (AST3)</li> <li>メディアカードの活用方法指導</li> </ul> </li> <li>・背景知識の整理                             <ul style="list-style-type: none"> <li>○キーワード探しとマインドマップ作成 (AST4)</li> <li>○適切なフィールドワーク方法論 (AST5)</li> </ul> </li> <li>・フィールドワーク計画</li> </ul>	
	夏季 夏季海外研修代替オンライン交流 (交流先：チャールストン Ashely Hall 校卒業生(現役大学生))	<ul style="list-style-type: none"> <li>・フィールドワークの実施</li> <li>・フィールドワーク報告</li> </ul>	
	9月～ 11月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・収集した情報や調査結果の分析</li> <li>・LABO の研修旅行報告のシェア</li> <li>・課題の設定</li> <li>・先行研究</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アカデミックスキルトレーニング (AST)                             <ul style="list-style-type: none"> <li>○シンキングツールとは (AST6)</li> </ul> </li> <li>研修経験をクロス化させ、自分の研究に反映。 多面的な思考の視野を育成する。</li> <li>○課題の設定 (AST7) 課題の設定方法を学習、自分の研究課題を設定し、先行研究をまとめる。</li> </ul>
	11月～ 12月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研究結果報告</li> </ul> これまでのシンキングツールや情報収集のスキルを活用する実践編として位置づける	これまでの先行研究とフィールドワークによる研究結果をまとめ、校外に共有する。 経験の振り返りと、自己の視野の広がりを確認。  冬期休暇中に自身の経験を振り返られるような研修報告を作成させる。
	1月～ 3月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一枚企画書の作成</li> </ul> 活動の振り返りと今年のまとめ	多様な経験をふまえて、自身の研究課題を再検討し、今年度の活動を1枚企画書にまとめる。  <ul style="list-style-type: none"> <li>・研究テーマ発表会</li> </ul>





(2) 活動の詳細



日比谷 武先生 勉強会①	
実施日時	2021年5月18日(火)
講師・場所	日比谷 武先生・昭和女子大学附属昭和高等学校
内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2021年度LABO1生徒紹介</li> <li>・信頼と教養(企業経営の観点から)</li> </ul> 



日比谷 武先生 勉強会②	
実施日時	2021年6月8日(火)
講師・場所	日比谷 武先生・昭和女子大学附属昭和高等学校
内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・心豊かないい人生を送るために</li> <li>・着眼大局・着手小局</li> </ul> 

日比谷 武先生 勉強会③	
実施日時	2021年7月9日(金)
講師・場所	日比谷 武先生・昭和女子大学附属昭和高等学校
内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・歴史、文化、心のふるさととしての薬師寺</li> </ul> 

チャールストン交流会	
実施日時	2021年8月
講師・場所	オンライン(メール、Zoom)
内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・チャールストン Ashley Hall 校卒業生2名へのインタビューと対談</li> <li>・自己肯定感に関する文化差</li> </ul>



日比谷 武先生 勉強会④	
実施日時	2021年10月19日(火)
講師・場所	日比谷 武先生・昭和女子大学附属昭和高等学校
内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人間らしい人間関係とは</li> <li>・人間の価値とは</li> <li>・人間の本当の値打ちとは</li> </ul> (「君たちはどう生きるか」から) <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;">   </div>

サステナブル・ブランド国際会議参加	
実施日時	2021年10月31日(日)
講師・場所	サステナブル・ブランドジャパン主催、株式会社日本旅行共催 日本大学 経済学部
内容	サステナブル・ブランド国際会議 学生招待プログラム 第2回 SB Student Ambassador ブロック大会(東日本大会) <ul style="list-style-type: none"> <li>・SDGs 達成とサステナブルな社会の実現に向けて</li> <li>・地域共生と気候変動対策の取り組み</li> </ul> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;">   </div>

日比谷 武先生 勉強会⑤	
実施日時	2021年11月30日(火)
講師・場所	日比谷 武先生・昭和女子大学附属昭和高等学校
内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人間らしい苦痛とは</li> <li>・人間のみじめさとは</li> <li>・人間のあるべき理想の姿とは</li> </ul> (「君たちはどう生きるか」から) <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div>

JTB 社員 講義	
実施日時	2021年12月10日(金)
講師・場所	JTB 営業開発プロデューサー 渡辺 優氏 JTB 営業第4課 佐藤 夏実氏 昭和女子大学附属昭和高等学校
内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・企業と企業人のバックキャストを知る</li> <li>・LABO1 キャリア研究として今捉えるべきことを明確にする</li> </ul> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div>

日比谷 武先生 勉強会⑥	
実施日時	2022年1月25日(火)
講師・場所	日比谷 武先生・昭和女子大学附属昭和高等学校
内容	[オンラインで実施] <ul style="list-style-type: none"> <li>・2021年度活動に関する助言</li> <li>・LABO1 提言予定プロジェクト「チャレンジウィーク」についての議論</li> </ul>

日比谷 武先生 勉強会⑦	
実施日時	2022年3月16日(火)
講師・場所	日比谷 武先生・昭和女子大学附属昭和高等学校
内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2021年度活動報告と振り返り</li> <li>・成果と課題の共有</li> </ul> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div>

### (3) 検証・評価(成果と課題)

#### 《成果》

- a. 全国高等学校グローバル探究オンライン発表会に参加し、英語での発表を実施する過程で、相手に理解してもらうために研究発表を構成する力が養われた。
- b. 校内の研究発表を日本語と英語の両方で行い、下級生にも理解しやすいよう、伝え方の工夫について考えることができた。
- c. JTBの方との対話会を通じて、キャリア教育への理解を深めることができた。
- d. オンラインを通じて海外と交流をすることで、自主性をもって意欲的に活動に取り組むことができた。
- e. 諸活動を通じて、司会として他の生徒へ意見を促すことで、円滑な議論の進め方について考えることができた。
- f. オンラインミーティングを積極的に活用し、有効に使用することができた。

#### 《課題》

- a. 新型コロナウイルスの影響による休校や海外研修の中止により、活動が予定通りに実施できず、代替案を考え出すことに活動時間を割かれてしまった。一方でチャールストン研修を前提とした活動にとらわれず、従来とは違った新たな活動に結び付けることができた。
- b. 度重なるオンライン授業により、全体で研究を行う時間がやや減少してしまったが、Google ClassroomやZoomミーティングを活用してオンラインでも可能な範囲で連携することができた。
- c. 新型コロナウイルスの影響により周辺他校との交流が制限されたため、地域への理解については若干不足してしまったことは否めない。こうした状況の中でも開催されているイベントに参加して他校生徒ともつながりを持つことはできていたが、さらに一層ローカル面についてもLABO活動を結びつけられるよう行えることを考えていきたい。

---

#### (4) 生徒の感想

- a. 自分の意見を考え、上手に分かりやすく伝えること、また他の人からの意見を理解し、そこから自分の考えを作ることを伸ばすことができた。また周りの意見をノートに取り、自分が感じたことを書くことで可視化でき、話すことをまとめて発言できるようになった。
- b. 対話会で司会を務め、それぞれの言葉を客観的な視点から消化しながらそこから発展できる新たな話題を考えたり、疑問を探したりすることによって思考や対応における瞬発力が身についた。
- c. 対話会を通して、人それぞれ違う背景や考えを持っており、経験から学ぶことや自分の信念をもって生きることの重要性を学んだ。初めて会う人と交流したサステナブル国際ブランド会議では、自分からコミュニケーションをとることの大切さを実感した。

## LABO2 日本人のジェンダーギャップの研究



指導者：昭和女子大学 伊藤 純 教授



### (1) 年間指導計画・実施方法

時期	活動項目	内容	
学習内容の流れ	前期	<ul style="list-style-type: none"> <li>・探究学習の手法を学習する</li> <li>・情報を適切に収集する力を養う 要約の書き方、論文の構造</li> <li>・テーマ設定のための背景知識の 収集</li> <li>・アドバイザーの伊藤先生の講義</li> <li>・「ジェンダーかるた」のカルタ を用いたワークショップの企画</li> <li>・伊藤先生講義</li> <li>・世田谷区男女共同参画センター らぶらすを訪問</li> <li>・グローバルビジネス学部丸山氏 の講義</li> <li>・ジェンダーかるたの宣伝活動</li> <li>・ジェンダーの観点からおもちゃ について学ぶ</li> <li>・北欧文化協会 6 月例会(ZOOM) 参加</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・探究学習とは（探究と調べ学習の違い、思考フレーム、情報収集の仕方、伊藤先生から文献の紹介）</li> <li>・日本とフィンランドのジェンダーについての基礎知識を学ぶ</li> <li>・ジェンダーにみるメディアの影響</li> <li>・「ジェンダーカルタ」読み札の活用方法について</li> <li>・ジェンダー差別を教育的観点からと、施策的な観点からテーマを考える</li> <li>・ジェンダーに関する知識を深めた</li> <li>・すべての人が性別にかかわらず自分らしく生き生きと暮らすことの大切さを学ぶ</li> <li>・子育てをする母親に寄り添える場所の存在について学んだ</li> <li>・ジェンダーかるたを配付した</li> <li>・丸山氏が駒場東邦の中学生と行ったプロジェクト「無意識の偏見とは？」の活動報告を聴講</li> <li>・ジェンダーギャップ指数について、日本と世界の比較結果を学ぶ</li> <li>・アメリカは多民族国家であるため、個を重視する習慣があり、多様性を受け入れる国であることを学ぶ</li> <li>・活動先、活動内容についての検討</li> <li>・ジェンダーかるたを広めるために、らぶらすへ行き、ジェンダーかるたを広めた</li> <li>・おもちゃの作り手がもっているであろう、男子・女子を隔てる意識について学ぶ</li> <li>・靴家さちこ氏による、フィンランドのワークライフバランスについて、コロナ禍でも4年連続世界一幸せな国では、一体どのような働き方の変化があるのか学ぶ</li> </ul>
	夏季	<ul style="list-style-type: none"> <li>こども園でのワークショップ（ジェンダーかるたの実践、児童のジェンダー意識調査）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ジェンダーかるたを広めるために、こども園へ行き、児童たちにジェンダーかるたを広めた。児童の職業に関するジェンダー意識を調査や、こども園でのジェンダー教育の実態について調査をした。</li> </ul>

9月 ～ 10月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・収集した情報や調査結果の分析</li> <li>・ジェンダー啓蒙エコバッグ作成の道筋を探る</li> <li>・男子校とのセッションの計画</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多面的な思考の視野を育成する。</li> <li>・意見交換、次年度へ向けての課題を再確認</li> <li>・中高部の小学生対象の学校説明会で配付するエコバッグに、ジェンダー啓蒙のイラストを載せることになった</li> <li>・ジェンダーの観点を意識したデザインを考案した</li> <li>・男女別のジェンダーにおける偏見、社会や日常で感じるジェンダー格差についてどの様に話し合いを行うか検討した</li> </ul>
11月～ 12月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・性別の違いによるジェンダー意識の違いについて考察</li> <li>・文化祭オンライン発表</li> <li>・全国高校生フォーラム 2021 に参加</li> <li>・男子校とのオンラインセッション実施</li> <li>・オンライン合同研修会発表準備</li> <li>・男子校とのセッション</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・男子校とのセッションに関する計画を検討、実施</li> <li>・校舎内のピクトグラムの個数・サイズ・デザインについて調査して、まとめる</li> <li>・研究内容、研究成果についてプレゼンテーション資料にまとめて発表し、動画を文化祭当日に YouTube 配信した</li> <li>・活動内容、研究成果について英語で発表したものを動画にまとめて応募した</li> <li>・海城高校の生徒と ZOOM と Jamboard を用いて、男女のジェンダー意識の違いや、男子から見た女子らしさ、女子から見た男子らしさについて意見交換を行った</li> <li>・在校生に向けたプレゼンテーションを開催ライブ動画配信の準備</li> <li>・男女の認識の違い、日常の性差について意見を述べ合い、男女の違いを比較した</li> </ul>
1月 ～ 3月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・男子校とのオンラインセッション実施</li> <li>・ヘルシンキ国際との交流</li> <li>・オンライン合同研修発表会</li> <li>・探究学習成果発表会</li> <li>・ジェンダーかるたのワークショップと普及活動の実施</li> <li>・昭和小学校へジェンダーかるたを配付</li> <li>・活動の振り返りと今年のまとめ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オンライン (ZOOM) でアンコンシャスバイアスについて話し合いをして、視野を広げた</li> <li>・ヘルシンキ国際高校との ZOOM セッションを行い、フィンランドと日本のジェンダー意識の違いについて比較、調査した</li> <li>・在校生に向けたプレゼンテーションを開催</li> <li>・らぶらすで、ジェンダーかるたの展示と父親と子どもが楽しみながらジェンダーの課題を発見するためのワークショップを実施。</li> <li>・らぶらすを通して、ジェンダーかるたを池之上青少年交流センター「いけせい」、希望ヶ丘青少年交流センター「アップス」、平和資料館に配付</li> <li>・昭和小学校の各クラス (計18クラス) にジェンダーかるたを配付</li> <li>・2年生から1年生への研究内容の引継ぎ</li> </ul>

(2) 活動の詳細

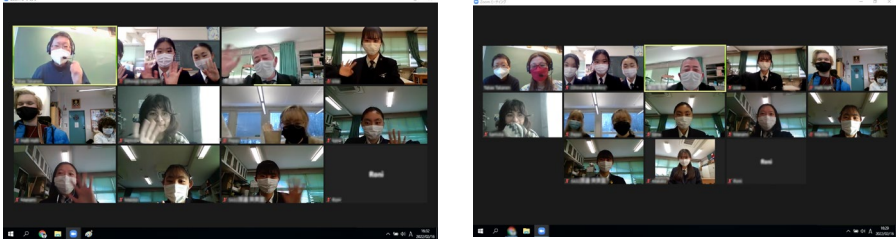
伊藤純先生講義 昭和女子大学	
実施日時	2021年5月18日
講師・場所	昭和女子大学教授 伊藤純先生 セミナー2
内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・テーマ設定①、先行研究の調査を開始した。</li> <li>・ジェンダーについて多角的に講義をしていただいた。</li> <li>・なぜジェンダーを研究してみようと思ったのか、自分とジェンダーとのかかわりなど自由に意見交換をした。</li> <li>・個人テーマや今後の研究の方向性を決めるための講義</li> </ul> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div>

世田谷区男女共同参画センターらぶらすを訪問	
実施日時	2021年6月15日
講師・場所	館長 坂口氏 世田谷区男女共同参画センターらぶらす
内容	<p>ジェンダーについて様々な観点から講義をしていただいた。すべての人が性別にかかわらず自分らしく生き生きと暮らすことができる社会を実現することを目指した活動内容について学んだ。ジェンダーかるたを配付し、施設で活用していただくことになった。ジェンダーに関する本を紹介していただいた。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div>



こども園でのワークショップ	
実施日時	2021年8月16日、20日
講師・場所	昭和女子大学附属昭和こども園
内容	<p>職業選択について現在の子ども達がどれくらいの固定観念をもっているのかを調査するために、ジェンダーかるたを体験してもらった。そして、職業の名前とイラストを見てもらい”男性らしい・女性らしい・どちらともいえない”三択で手を挙げてもらい調査を行った。</p> 

男子校（海城高校）とのセッション	
実施日時	2021年11月19日、12月17日、2022年1月18日
講師・場所	美術室
内容	<p>1年生が男女のジェンダー意識の違いについて、実際に男子生徒に話を聞き調査をした。11月19日はオンライン（ZOOM）でJamboardを用いて、男女のジェンダー意識の違いや、男子から見た女子らしさ、女子から見た男子らしさについて意見交換を行った。12月17日は昭和女子大学中高部に海城高校の生徒3名を招き、女子校の校舎内を案内した後、男女の認識の違い、日常の性差について意見を述べ合い、男女の違いを比較した。1月18日はオンライン（ZOOM）でアンコンシャスバイアスについて話し合いをして、視野を広げた。</p> 

ヘルシンキ国際高校とのオンラインセッション	
実施日時	2022年2月16日
講師・場所	美術室
内容	<p>事前にジェンダー意識に関するアンケートを実施して、フィンランドと日本のジェンダー意識の違いについて比較をした。フィンランドの男女平等の現状について調査をしたり、男女の給与格差の認識の違いについて学んだりした。</p> 

ジェンダーかるたの世田谷区公共施設への紹介展示と配付	
実施日時	展示 2022年3月1日～14日、ジェンダーかるたの体験ワークショップ
講師・場所	世田谷男女共同参画「らぶらす」を軸にジェンダーかるたの紹介展示 配布、ワークショップ実施
内容	<p>量産したジェンダーかるたをらぶらすに配付した。ジェンダーかるたの展示を2022年3月1日（火）～14日（月）に行い、父親と子どもが楽しみながらジェンダーの課題を発見するためのワークショップを2022年3月13日（日）に実施していただいた。らぶらすを通して、ジェンダーかるたを池之上青少年交流センター「いけせい」、希望ヶ丘青少年交流センター「アップス」、平和資料館に配付して、地域の小学生にもジェンダーかるたを広めることができた。</p> 

### (3) 検証・評価（成果と課題）

#### 《成果》

- a. 「ジェンダーかるた」を地域や昭和こども園、昭和小学校に数多く配付することができた。また、ワークショップや展示を行うことで、地域の人々、特に子ども達にジェンダー意識の向上や啓蒙活動に繋げることができた。
- b. 昭和こども園で子ども達に対するワークショップを行うことで、ジェンダーかるたの改善点に気が付くことができた。また、子ども達の職業に対するジェンダー意識の調査をすることで、職業への偏見をもってしまう原因は、周りの環境によるものであると結論づけた。
- c. 世田谷男女共同参画「らぶらす」での講演や男子校生徒のセッションなどを通して、誰もが性にとらわれずに自分の好きなように生きられる社会の重要性について学んだ。
- d. オリジナルエコバッグ制作配布によるジェンダー意識の向上や啓蒙プロジェクトも企画運営実現に向け現1年生に引き継ぐ形で継続することになった。

#### 《課題》

- a. 昭和こども園でのワークショップを通して、ジェンダーかるたに付属してある札の説明書が子どもにとってはおわかりにくいと感じたため、改善策を立てる必要がある。
- b. ジェンダーかるたの更なる運用実施の企画運営が肝要になる。
- c. 本年度も新型コロナ流行の関係で、生徒達が実施するジェンダーかるたのワークショップは昭和こども園のみとなってしまった。来年度以降、新型コロナの流行が落ち着いたら、地域のこども園、小学校にてワークショップを実施して、ジェンダーに関する意識調査を行い、ジェンダー意識の変化について年度比較や考察ができると良い。

## LABO3 海外で活躍する日本人リーダーの研究

指導者：昭和女子大学 米倉 雪子 准教授


### (1) 年間指導計画・実施方法


時期	活動項目	内容
前期	・探究学習の手法を学習する	・アカデミックスキルトレーニング (AST) ○探究と調べ学習の違い ○ロジカルシンキングとは (AST1) ○思考フレーム (AST2) ○情報収集の仕方 (AST3) メディアカードの活用方法指導
	・情報を適切に収集する力を養う 要約の書き方、論文の構造	
	・テーマ設定の背景知識の収集	・背景知識の整理 ○キーワード探しとマインドマップ作成 (AST4)
	・米倉アドバイザーの講義	・カンボジア情勢について、基本知識の確認
	・研究テーマの共有	・各個人が今年度設定した研究テーマについて、事前研究を行った上でプレゼンテーションをし、共有する
夏季	・フィールドワーク(オンライン)の計画	○適切なフィールドワーク方法論 (AST5) ・フィールドワーク計画
夏季	・フィールドワーク (オンライン) の実施	・フィールドワークの実施 ・フィールドワーク報告
9月～11月	・収集した情報や調査結果の分析	・アカデミックスキルトレーニング (AST)
	・夏季海外研修代替オンライン交流	1)プノンペン在住の高校生12名とZoomによる交流会 2)倉田ベッパー代表倉田浩伸氏によるオンライン講義
	・代替プログラムの振り返り	・意見交換、次年度へ向けての課題を再確認 ・代替プログラムの振り返り/各自の考えを発表 ・役割分担の決定、今後の計画
	・フィールドワーク (ローカル)	・世田谷区池尻の「友成工芸」訪問 工場見学、講義、質疑応答
11月～12月	・研究テーマについての討論会	・年度当初と比較して変化した点を出し合いながら模造紙にまとめる
11月～12月	・オンライン合同研修会発表準備	・役割分担の決定、今後の計画
11月～12月	・個人レポート作成	・ここまでの活動報告を年内に提出する
1月～3月	・オンライン合同研修発表会	・講義、グループディスカッション、プレゼンテーション
	・探究学習成果発表会	・在校生に向けたプレゼンテーションを開催
	・活動の振り返りと今年のまとめ	


学習内容の流れ

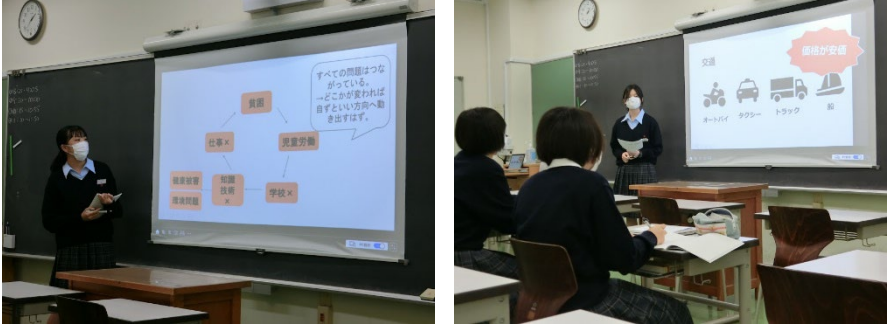
## (2) 活動の詳細


友成工芸・チアノル氏講演会	
実施日時	2021年8月18日(火)
講師・場所	講師：友成工芸 代表、友成哲郎氏 アンコール人材育成 代表、チアノル氏 場所：昭和女子大学附属昭和高等学校(大教室)
内容	<ul style="list-style-type: none"><li>・友成工芸が行っているカンボジアでの技術支援について</li><li>・チアノル氏のカンボジア内戦での体験、難民としての日本での生活について</li><li>・チアノル氏が代表を務めるアンコール人材育成の活動について</li></ul>  

POPOK 大路紘子氏の zoom 講演会	
実施日時	2021年10月22日(金)
講師・場所	講師：POPOK 代表、大路紘子氏 場所：昭和女子大学附属昭和高等学校(会議室)
内容	<ul style="list-style-type: none"><li>・カンボジアの子供たちが置かれている現状を学ぶ。</li><li>・カンボジアで大路氏が行っている栄養教育をどのように行っているのかを学ぶ。</li><li>・質疑応答を行い、生徒の個人テーマについての質問を行う。</li></ul> 

スヴァイチェイク・オーガニック・ファーム、アンコール・クッキー創業者 小島幸子氏の zoom 講演会	
実施日時	2021 年 10 月 30 日 (土)
講師・場所	講師：スヴァイチェイク・オーガニック・ファーム、アンコール・クッキー創業者 小島幸子氏 場所：昭和女子大附属昭和高等学校(会議室)
内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「海外で活躍する日本人リーダー」として、どのようなことを大切にしているのか、今までの経験から得た知識について学ぶ。</li> <li>・コロナ後の、大きく変化した世界にどのように対応していくべきかを講演してもらい、学んでいく。</li> </ul> 


カンボジアの高校生との交流会(オンライン)	
実施日時	2021 年 10 月 31 日 (日)
場所	昭和女子大学附属昭和高等学校(会議室)
内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・カンボジアで、小学校教師を務めているソピアック氏のお嬢様と現地の高校による交流会を行い、お互いの学校紹介を行った。</li> <li>・お互いの学校生活についてインタビューを行った。</li> <li>・積極的にコミュニケーションを行う大切さを学んだ。</li> </ul> 

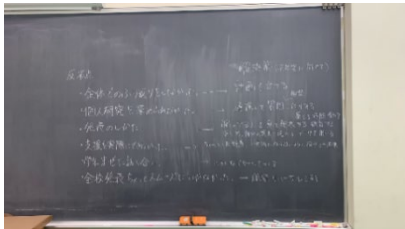

文化祭での研究発表内容の作成、および動画の撮影	
実施日時	2021年11月8日(月)
場所	昭和女子大附属昭和高等学校(学習室⑤)
内容	<p>・11月現在の活動、学習成果をまとめ、発表した。</p> 

クラタペッパー創業者倉田浩伸氏の zoom 講演会	
実施日時	2021年12月11日(土)
講師・場所	<p>講師：クラタペッパー社長 倉田浩伸氏          場所：昭和女子大学附属昭和高等学校(会議室)</p>
内容	<p>・現地の人々を社員として雇用し、会社を運営するために大切な事を学んだ。          ・高校で多様な人と会い、視野を広げることの大切さを学んだ。          ・自己肯定感の持たせ方、持ち方を学んだ。</p> 

2021年度合同カンボジア研修会(zoom)	
実施日時	2022年1月8日(土)
場所	本校生徒は自宅から参加
内容	<p>・各提携校の活動報告や支援実績報告を受けた。          ・各グループに分かれてのディスカッションを行った。          ・講演を受けて、新しい活動の方向性を話し合った。</p>

総合的な探究成果発表会 (zoom)	
実施日時	2022年2月18日(金)
講師・場所	昭和女子大学附属昭和高等学校
内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全校生徒(高校生だけでなく、中学生も含む)に向けての活動内容、実績を報告した。</li> <li>・報告を英語で行い、英語での発表準備の方法を学んだ。</li> </ul>

探究発表 (zoom)	
実施日時	2022年2月22日(火)
講師・場所	昭和女子大学附属昭和高等学校
内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高校1、2年生、中学3年生に向けての活動内容、実績を報告した。</li> <li>・特に来年、LABO 活動を選択する現中学3年生に対してのプレゼンを重視し、カンボジア文化を楽しく学べるクイズも作成した。</li> </ul> 

今年度のまとめ、反省	
実施日時	2022年3月1日(火)
講師・場所	講師：昭和女子大学国際学部准教授、米倉雪子先生 場所：昭和女子大学附属昭和高等学校
内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高校2年生は、2年間の活動のまとめを行い、さらに反省点を高校1年生に託した。</li> <li>・高校1年生は、高校2年生からの活動実績、反省を踏まえ、来年度の活動内容、方針を考えた。</li> <li>・米倉先生からの評価を頂き、まとめとする。</li> </ul>  



### (3) 検証・評価（成果と課題）

#### 《成果》

- a. Zoom を使用したオンラインミーティングを積極的に活用し、有効的に使用することができた。
- b. コロナ感染症の蔓延のため、カンボジア研修は行えなかったが、多くの様々な方々の講演を受ける事ができて生徒たちの心の成長につなげることができた。
- c. 「海外で活躍する日本人リーダー」を調査し、学ぶことでリーダーとしての条件と大切にすべき信念を、自分たちで探し当てることができた。
- d. 「新たな時代のリーダー像」という新しいテーマも見出し、多くの人と関わるための「語学力」「多様性を理解し尊重する」、物事を上手く進めるための「論理的思考」、SNS などを活用した「発信力」なども必要であると確信できた。
- e. 様々な社会の問題を知ることによって、解決には一人の力だけではなくチーム力であることが理解できた。
- f. 成果発表では、クイズを使用したゲームでの発表を自分たちで企画し、予想以上に興味をもって参加してもらえた。
- g. 合同研修会では、他校の生徒と共に議論をすることでより知識や考えを深めることができた。カンボジアで活躍するリーダーの方々のお話を聞くことで自分の視野が広がった。

#### 《課題》

- a. 新型コロナウイルスの影響による海外研修の中止により、活動が予定通りに実施できず、代替案を考え出すことに活動時間の多くを割かれてしまった。
- b. 全体で集まって研究を進める時間が十分に確保できず、個々の活動が多くなってしまった。今後は、ミーティングの場を用意し、皆が共通認識をもって各個人の問題も考える時間を作っていく。
- c. 年度初めに休校が重なり、今年度から新規で参加した高校1年生が活動自体について十分に理解を深める機会がないまま LABO 活動を進めることになってしまった。
- d. 地域との交流や地域への理解についてはローカル面について LABO 活動を結び付けられるよう、引き続き行えることを考えていきたい。


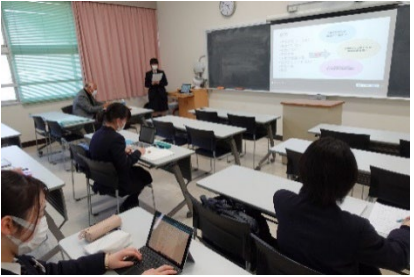

## LABO4 多文化共生社会とボランティアの可能性



指導者：アクティブ・シティズンシップ研究所代表 興梠 寛 先生


### (1) 年間指導計画・実施方法



	時期	活動項目	内容
学習内容の流れ	5月～7月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・探究学習の手法を学習する</li> <li>・情報を適切に収集する力を養う</li> <li>・テーマ設定のための背景知識の収集</li> <li>・研究テーマの共有</li> <li>・興梠寛先生のご講義</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アカデミックスキルトレーニング (AST)                             <ul style="list-style-type: none"> <li>○探究と調べ学習の違い</li> <li>○ロジカルシンキングとは (AST1)</li> <li>○思考フレーム (AST2)</li> <li>○情報収集の仕方 (AST3)</li> <li>メディアカードの活用方法指導</li> </ul> </li> <li>・背景知識の整理                             <ul style="list-style-type: none"> <li>○キーワード探しとマインドマップ作成 (AST4)</li> </ul> </li> <li>・フィールドワーク計画                             <ul style="list-style-type: none"> <li>○適切なフィールドワーク方法論 (AST5)</li> </ul> </li> <li>・各個人が今年度設定した研究テーマについて、事前研究を行った上で発表をし、共有する (2年生は昨年度の研究成果も発表する)</li> <li>・ボランティアの目的やあり方、SDGs について</li> </ul>
	夏季	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実施可能なグローバルな活動の調査</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グローバルな活動を行っている世田谷区の企業・団体の調査</li> </ul>
	9月～11月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・収集した情報や調査結果の分析</li> <li>・興梠寛先生のご講義</li> <li>・市川斉氏のご講義</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アカデミックスキルトレーニング (AST)                             <ul style="list-style-type: none"> <li>○シンキングツールとは (AST6)</li> </ul> </li> <li>・SDGs、課題解決型学習</li> <li>・NGOのシャンティ国際ボランティア会のミャンマーにおける支援活動</li> <li>・校内でのLABOの活動内容発表に向けた準備</li> </ul>
	12月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・興梠寛先生のご講義</li> <li>・個人レポート作成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ソーシャルビジネス</li> <li>・冬季休暇中にこれまでの個人研究の成果をまとめる</li> </ul>
	1月～2月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・NGO難民自立支援ネットワーク (REN) の活動支援</li> <li>・興梠寛先生のご講義</li> <li>・活動の振り返りと今年のまとめ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・難民自立支援ネットワークが難民支援のために行っているビーズアクセサリー販売のサイトを全校生徒に紹介</li> <li>・難民問題 「つなぐ、つながる、わかちあう」というテーマでのこれまでの学習内容を振り返り、コロナ禍の中でも自分たちにできるボランティア活動について議論し、発表する</li> <li>・全校生徒を対象にした研究活動の発表会</li> <li>・LABO4内での個人テーマ研究の発表会</li> </ul>

(2) 活動の詳細

興梠 寛 先生の講義	
実施日	2021年5月12日、6月23日、7月17日、9月29日、10月20日、11月24日 12月17日、2022年1月12日、2月16日、3月19日
講師・場所	興梠 寛先生 昭和女子大学附属昭和高等学校
内容	<p>&lt;講義内容&gt;</p> <p>5月12日 Think Globally, Act Locally! 地球的視野で考えて、足元から行動しよう</p> <p>6月23日 ボランティアライフをはじめよう ①私って、だれ?人はなぜボランティアをするのか</p> <p>7月17日 ②特別講義「アジアの山岳少数民族の女性たちに寄り添って」(伊能さくら氏)</p> <p>9月29日 ③未来を夢見ていまを生きる～ピーターラビットの眼から見たボランティアの歴史</p> <p>10月20日 ④魅惑の林檎の美味しい食べ方～ボランティアを楽しむ活動術</p> <p>11月24日 ソーシャルインクルージョンという新しい社会の“カタチ” ①特別講義「ママ・カクマ～自由へのはるかなる旅」(ジンダベラ・ベルトラン氏)</p> <p>12月17日 ソーシャルインクルージョンという新しい社会の“カタチ” ①もし、私たちが“難民”だったら何をしてほしいか?</p> <p>1月12日 ②暮らしのなかで実践できる“多文化共生アクション (ワークショップ)”</p> <p>2月16日 足元で行動しよう! SDGs 生活 パワーポイントで提案する SDGs アクション・プラン (プレゼンテーション)</p> <p>3月19日 ファイナルメッセージ みなさんと一緒に学び考えたこと</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <div style="text-align: center; margin-top: 20px;">  </div>

伊能さくら氏の特別講義	
実施日	2021年7月17日(土)
講師・場所	伊能さくら氏 昭和女子大学附属昭和高等学校
内容	<p>タイ王国東北部チェンライ県で山岳少数民族の人権擁護活動や生活文化の紹介をはじめ、女性の暮らしと経済的自立を支援している Volunteer and Homestay in Chiang Rai Thailand の伊能さくら氏にオンラインでお話を伺う。</p> <p>&lt;テーマ&gt;アジアの山岳少数民族の女性たちに寄り添って</p> <p>&lt;講演内容&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・タイにおける新型コロナウイルスの感染状況と支援活動への影響。</li> <li>・支援活動を始めた理由。山岳少数民族の生活と社会、彼らから学んだこと。</li> <li>・発展途上国の人々によって先進国の人々の生活が成り立っていること。</li> <li>・高校生にできる支援の方法。</li> </ul> <p>&lt;生徒との質疑応答の内容&gt;</p> <p>タイにおける格差の現状、民族同士の関係、難民や不法移民の状況、衛生環境、グローバル化による山岳少数民族の生活の変化、新型コロナウイルス感染予防対策が山岳少数民族の社会に与えた影響、山岳少数民族の信仰の変化</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div>

難民のジンダヘブラ・ベルトラン氏の特別講義	
実施日	2021年11月24日(水)
講師・場所	ジンダヘブラ・ベルトラン氏 昭和女子大学附属昭和高等学校
内容	<p>日本に滞在する難民を支援する人権 NGO『難民自立支援ネットワーク』の支援を受けている難民のジンダヘブラ・ベルトラン氏のお話を伺う。</p> <p>&lt;テーマ&gt;「ママ・カクマ～自由へのはるかなる旅」</p> <p>&lt;講義内容&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ベルトラン氏が母国ブルンジから来日されるまでの経緯。</li> <li>・難民認定の申請を何度も行っているが、認められていない。</li> </ul> <p>&lt;質疑応答&gt;</p> <p>難民として認められないことによる問題、日本の高校生にできる支援の方法</p> <div style="text-align: center;">  </div>

フェアトレード商品の販売	
実施期間	2022年1月～2月（新型コロナ感染予防のため学年で日を分けて実施）
場所	昭和女子大学附属昭和高等学校
内容	<p>フェアトレード商品のマカロン（販売元：わかちあいプロジェクト）とチョコレート（販売元：ピープルツリー）を校内で販売した。生徒自身が事前に作成したフェアトレードに関する動画を昼食時に全クラスの生徒に視聴してもらい、途上国の生産者が置かれている現状や、フェアトレード商品の認知度向上に努めた。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div>

### （3）検証・評価（成果と課題）

#### 《成果》

- a. 生徒は SDGs に関わる国際問題やボランティア活動への理解を深め、問題の背景を分析し、自分が問題解決に向けてできるボランティア活動を考え、行動に移せた。
- b. 生徒が研究や発表の方法のスキルを伸ばし、積極的に行動するようになった。

#### 《課題》

- a. コロナ禍のためタイへの研修が実施できず、難民を支援している NGO でのボランティア活動や地域と連携した活動もできず、研究の情報源はインターネットから得られる既存のデータによるものとなった。今年度は日本における難民の問題を研究対象にするなど、国内で可能なグローバル研究を行ったが、来年度も状況に応じた研究内容の調整が必要と思われる。
- b. 2年目となる高校2年生の個人研究は、アンケートなどを通じたデータの収集が行われないなど、内容の深化が図られなかった。個人研究に関する指導時間を増やすなど、研究レベルを向上させる必要がある。

### （4）生徒の感想

#### 《成長できた点》

- a. 国際問題に積極的に目を向けようという思いが強くなり、その問題を解決するために自分にはどのようなことができるかということを考え、行動に移した。
- b. 研究発表を通して、使用するデータの信頼性を判断する力や複数のデータを通して事象を見る力、自分の仮説の真偽を見極める力を身に着けることができた。
- c. ボランティア活動をされている方や難民の方のお話を伺うことで、考えるための多様な視点を得ることができた。

---

《努力した点》

- a. 自分の意見を他の人に分かりやすく伝え、他の人の意見を積極的にメモすること。
- b. 自分から積極的に行動をすること。

《反省点》

- a. 他の人の意見と自分の意見をつなげて考えることができなかった。
- b. 話し合いで自分から話題を提供したり、話している相手に問いかけたりすることができなかった。

《今後の活動》

- a. 積極的にボランティア活動を行い、SDGs に心がけて生活する。

## LABO 活動 3 年間の成果（アンケート結果より）

《アンケート結果》

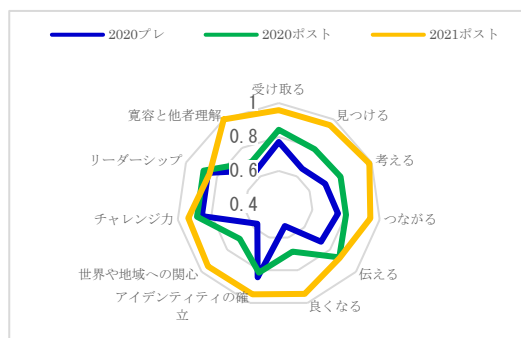
事業を通じた生徒の変化

a. 現高校 2 年生の「LABO 研究」2 年間の活動での意識の変化に目を向ける。

活動開始時から比較すると、構想調書の目標 1 に関わる「地域への関心」「つながる」「考える」の指標で大きく向上が見られた。LABO の研究活動を通じて 6 スキルの多くが向上できている様子がうかがえる。

特に「世界や地域への関心」は、事業開始当初の文部科学省ヒアリングで、LABO 研究に地域での活動を行うよう指摘を受けて改善を加えた部分の指標であるが、コロナ禍で地域での活動に重点化した事も加わり 2021 年の指標が大きく増加した（資料 3 も参照）。地域での活動が増えるとともに、「寛容と他者理解」の指標も増加している。

スキル面では「伝える」のみ 1 年次ポストから 2 年次ポストでの伸びが鈍化しているが、LABO が 1・2 年混合の活動で、他の活動よりも少人数なため発表の機会に恵まれていることが理由であると思われる。「リーダーシップ」の鈍化は LABO 研究が少人数の閉じた活動になることが多い事が起因しているのではないかと考えられる。リーダーシップは LABO 設立時の目標となっている基礎の部分なので、この指標が伸びない点は大きく改善が必要である。サービスマーケティングや他の活動と内容や発表をクロスさせ、学校の研究を引っ張る存在であることをより意識させる手立てを考えたい。



資料 2 LABO 肯定的評価の経年変化

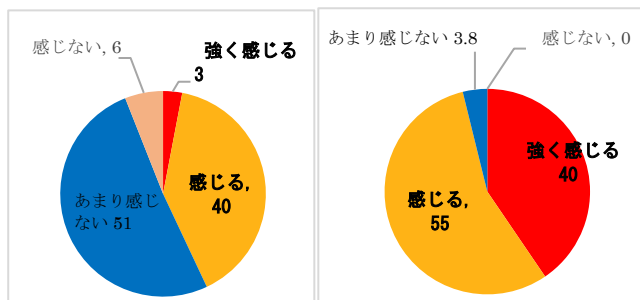
b. LABO 研究は、新型コロナウイルス感染拡大の影響で海外研修旅行が実施できなくなって以降は地域での活動に重点化した。

資料 3 は地域での活動に注力する前後の LABO 研究選択者の地域への関心を聞いたものであるが、対象生徒の地域への志向度を見ると、地域課題に積極的に興味を持つようとしている生徒を大きく増加させることができたことがうかがえる。

### 資料 3 LABO 研究選択者の地域への志向性

Q. 身近なところでおきている出来事や課題に興味を持ったり理解しようとしていますか？

2019 年度 LABO 選択者 (n=33) 2021 年度 LABO 選択者 (n=27)



c. 個別の項目で今年度の意識の向上を探ってみたい。

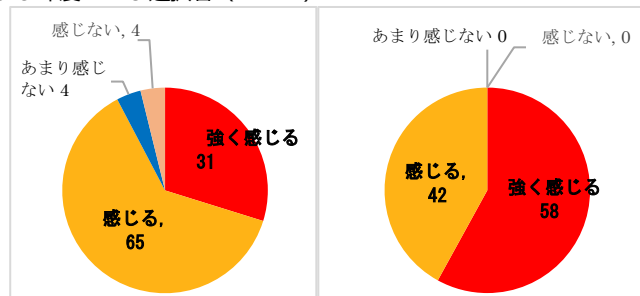
《スキルの向上に関して》

スキル面で向上が顕著だったものは以下の通りである。探究のサイクルを意識させて活動をさせており、課題の設定、資料収集・分析、まとめと発表それぞれの場面で重点的に意識させているスキル（課題設定であれば「発想力」、資料収集・分析であれば「多面的視点」など）の伸びがよく見られている。一方で、指導を担当していた LABO の外部顧問の先生からは、コンソーシアム委員会にて、「先行研究」の蓄積の甘さを指摘された。意識だけでなく内容面も伴うものにしていく必要があると言える。

### 【多面的視点】

自分の主張だけでなく、研究の成果や調べた内容などを考慮して物事を考えることができる。

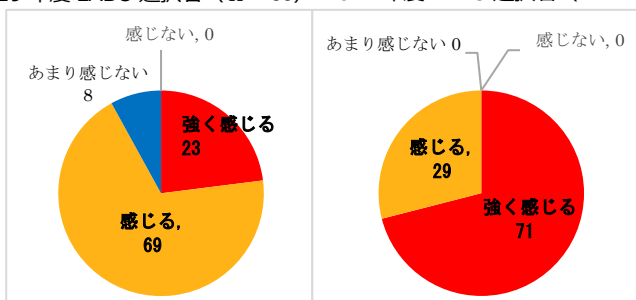
2019 年度 LABO 選択者 (n=33) 2021 年度 LABO 選択者 (n=27)



【多面的視点】

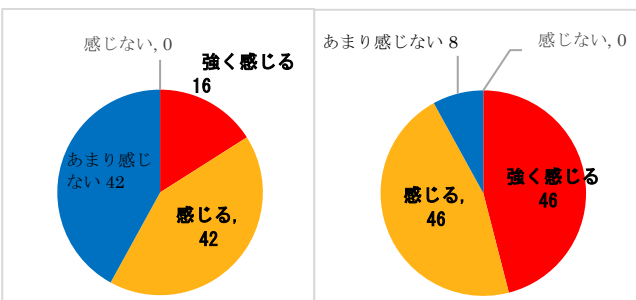
物事を一つの方向からではなくいろいろな方向から考えようとしている。

2019年度 LABO 選択者 (n=33) 2021年度 LABO 選択者 (n=27)



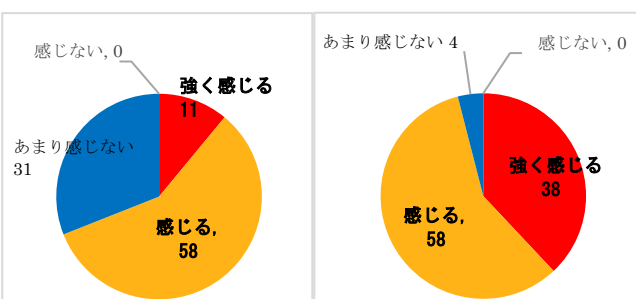
【発想力・創造力】

問題を解決する際、困難に直面した際などに、色々な発想やアイデアを出すことができる。



【論理的思考力】

自分の考えを主張する際には論理的に考え、説得力をもって行うことができる。



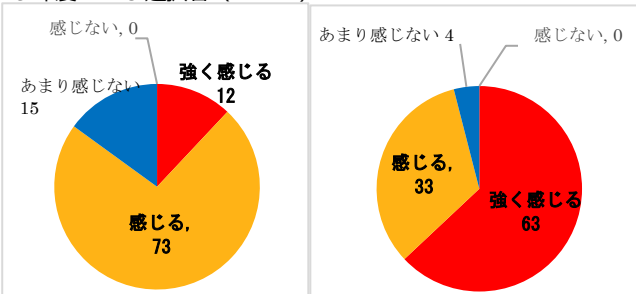
《行動指標の向上に関して》

行動指標に関する項目については、どれも活動前後の伸びが著しく、生徒の意識の向上がよく見られている。これは異なる学年混合による活動、外部人材との関わり（今年度は直接の講義などではなくオンラインでの関わりが多かったが）などが起因していると考えられる。高校 2 年生は学年が上がり、グループを引っ張る立場になること、進路について考える機会が増えることなどから、オンライン講義でも将来に関する質問が多く行われていた。自己評価でもでも協働性やアイデンティティへの意識が高まっているようである。協働的な活動は LABO の根幹となるものであるため、今後もこの形態の活動を多く取り入れていきたい。

【アイデンティティ】

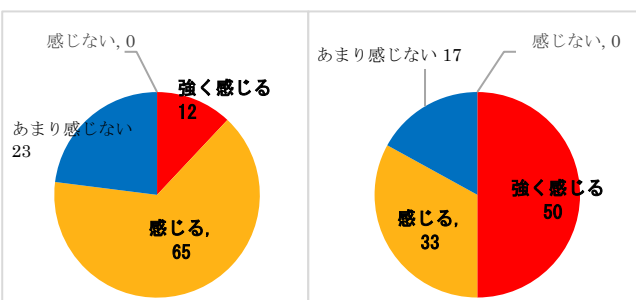
まわりの意見に流されず、自分の考えを持つことができる。

2019年度 LABO 選択者 (n=33) 2021年度 LABO 選択者 (n=27)



【意見表明・説得力】

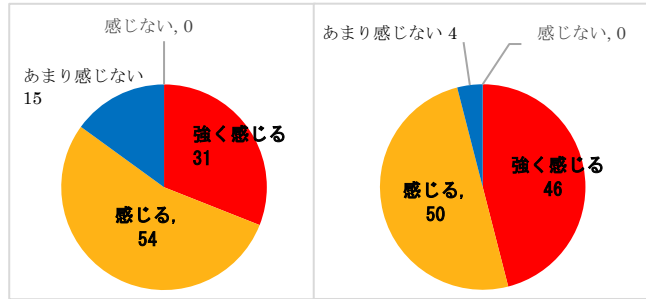
他の人と考えや意見が違ったり対立していても、自分の意見を主張することができる。





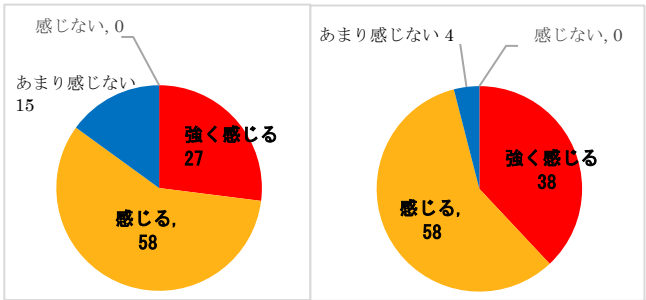
【チャレンジ力】

成功するかわからなくても、新しいことや少し難しいことなどにチャレンジすることができる。



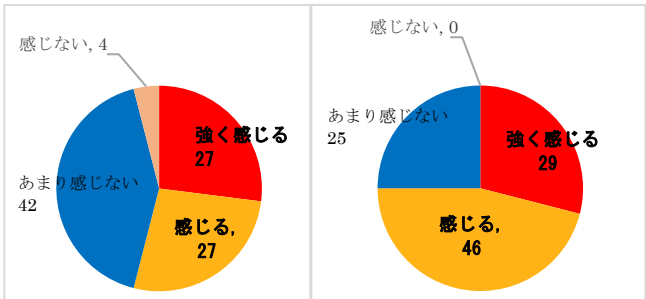
【協働】

困難にぶつかったり行き詰ったりしたときも、前向きな提案をするよう心掛けることができる。



【協働】

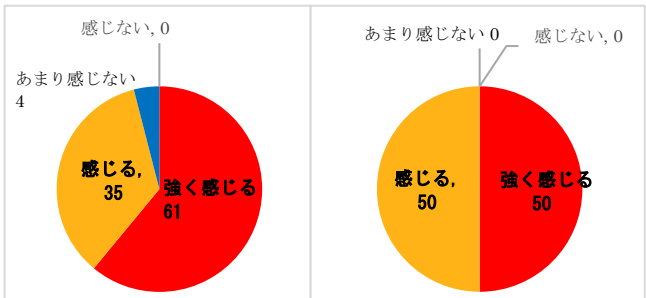
行動する場面や課題解決の場面では、メンバーで目標を共有したり、意識を高くするよう引張る方である。



「地域への関心」肯定意見は全体では増加したものの、強い肯定意見は減少している。生徒が活動前に LABO 研究で抱いていたアクションへの期待を効果的に形にすることができなかつた点は反省し、地域へのアクションをより形にしやすくなるような手立てを講じたい。

【地域への関心】

ボランティア活動や地域で何らかの活動に参加あるいは企画することに興味がある。



「海外への意識」については、コロナ禍前の活動内容による評価との比較で捉えてみたい。コロナ禍で海外研修が中止となったため、グローバル事業の再検討が必要となった。各 LABO では海外で活躍する方のオンライン講演会、海外の高校生とのオンライン交流等を実施した。生徒による評価を見ると、海外を実施していた時と意識の違いはあまり見られず、活動の補強としての効果はある程度あったことが推察できる。ただ、LABO の希望者数自体が大きく減少しているため、生徒にとって魅力的なプログラムを提供する必要がある。

【海外への意識】

将来留学したり、グローバルな企業や機関で国際的な仕事に携わりたいと思う。

